

Olympic

# オリンピック教育

Vol.7 2018/04-2019/03

Education



筑波大学オリンピック教育プラットフォーム  
筑波大学附属学校オリンピック教育推進専門委員会



# 目次

## はじめに

筑波大附属学校群のオリンピック・パラリンピック教育 .....	茂呂 雄二 ...	2
2020 年に向けたオリンピック・パラリンピック教育 .....	真田 久 ...	2

## 研究・活動報告

平成 30 年度スポーツ庁委託事業		
「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」について .....	福田 佳太 ...	3
クーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2018 実施報告 .....	中塚 義実 ...	6
「学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の実態と成果 - 2016・2017 年度の『全国展開事業』報告書の分析から -」		
日本スポーツ教育学会第 38 回大会（広島大学）口頭発表 .....	宮崎 明世 ...	13
日本体操学会第 18 回大会 参加報告 .....	鈴木 王香 ...	14
ISHPES（国際体育・スポーツ史学会）国際シンポジウム報告 .....	大林 太朗 ...	15
ブエノスアイレス・ユースオリンピック視察報告 .....	大林 太朗 ...	16
第 2 回なないろスポーツフェスタ報告 .....	福田 佳太 ...	17

## 実践報告

【附属小学校】「オリンピック・パラリンピック教育」活動報告 .....	眞榮里耕太 ...	18
【附属小学校】「オリンピック・パラリンピック教育」活動報告 .....	佐々木昭弘 ...	19
【附属中学校】附属中学校の取り組み .....	山形 友広 ...	20
【附属高等学校】附属高校の取り組み .....	鮫島 康太 ...	22
【附属駒場中・高等学校】附属駒場のオリンピック・パラリンピック教育の実践報告 .....	登坂 太樹 ...	23
【附属坂戸高等学校】オリンピック・パラリンピック活動報告 .....	藤原 亮治 ...	25
【附属視覚特別支援学校】オリンピック・パラリンピック教育報告 .....	原田 清生 ...	26
【附属聴覚特別支援学校】附属聴覚特別支援学校におけるオリンピック教育の取り組み .....	岡本 三郎 ...	28
【附属大塚特別支援学校】大塚オリパラデー 2018 & マスコット投票通信 .....	初村多津子 ...	32
【附属桐ヶ丘特別支援学校】附属桐ヶ丘特別支援学校におけるオリンピック教育の取り組み .....	畠山 綾香 ...	34
【附属久里浜特別支援学校】附属久里浜特別支援学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の取組	竹崎 信也 ...	36

## 特別寄稿

2017（平成 29）年度スポーツ庁オリンピック・パラリンピック・ムーブメント		
全国展開事業茨城県アンケート調査報告 .....	宮崎 明世 ...	39
筑波大学ボランティア育成セミナー実施報告 .....	江上いずみ ...	44
筑波大学 TIAS による附属駒場中学校でのオリンピック価値教育（OVEP） .....	高橋美穂子 ...	47

## 資 料

OVEP 指導案資料 .....		48
------------------	--	----

### 筑波大附属学校群のオリンピック・パラリンピック教育

平成 30 年度筑波大学附属学校教育局教育長・副学長 茂呂 雄二

東京オリンピック・パラリンピックが、いよいよ来年開催される今、『オリンピック教育』第7巻を刊行することができました。筑波大学においては、さまざまな教育・研究組織で、オリンピックとパラリンピックに関わる活動をさまざまな形で展開しています。その中で、オリンピック教育プラットフォームと附属学校オリンピック教育推進専門委員会が中心となって行っている活動をまとめたものが本冊子です。本冊子は 2011 年度に附属学校オリンピック教育推進専門委員会が発行した「オリンピック教育報告集」が発展し、2013 年以来、毎年刊行されてきました。本号も、プラットフォームによるさまざまな活動と附属学校における実践活動の報告が掲載されています。筑波大学のオリンピック・パラリンピック教育の一端である、附属学校 11 校全校の活動をまとめてご覧いただけるように編集した資料となっております。

平成 30 年度には、ボランティアの募集も始まりました。それに合わせて、附属学校教育局では、本学体育系大学院の教員や学生の協力の下、オリンピック教育推進専門委員会を中心に、神田外語大学や文京区・台東区などと連携し、国際スポーツボランティア人材育成プログラムを企画し、6 月から 1 月までの間に 7 回のセミナーを開催し、オリンピックをはじめとした国際スポーツ大会の運営や通訳、高齢者や障害者のサポートボランティア等の候補者に対し、必要な教養知識や技能を提供しました。また、普通附属と特別支援との連携推進委員会が主導し、12 月に「共生社会を目指すスポーツ交流とシンポジウムの集い」を開催し、パラリンピアンへの講演やパラリンピック種目の競技やアダプテッドスポーツの体験・交流の機会を設け、今後の共生社会の在り方に関する情報の発信を行いました。参加者が 300 名を超える盛況な会となり、オリンピック・パラリンピックへの大きな期待を実感するとともに、共生社会実現への確信もえる機会となりました。

### 2020 年に向けたオリンピック・パラリンピック教育

筑波大学体育系、CORE 事務局長 真田 久

筑波大学 (CORE) では、2015 年度からスポーツ庁の委託を受けて各地の教育委員会と連携し、学校や地域の特色を生かした同教育を推進しています。また、2018 年度からは、東京 2020 組織委員会と協力して国際オリンピック委員会 (IOC) が発行するオリンピック価値教育プログラム (OVEP) の翻訳、学習指導案の作成と普及を行っています (資料: p.48 参照)。特に 2018 年度には、文京区や神田外語大学と連携して、ボランティア育成セミナーを 7 回開催し、400 名以上の方々 (市民、大学生・高校生) が参加されました。附属学校の先生方の協力のもと、講義のみならず、パラリンピックスポーツの実技や障害のある方々へのサポート方法などの実習は、参加者から高い評価を得ました。また、クーベルタン・嘉納ユースフォーラムでは、附属高校、附属坂戸高校に加え、自由学園 (男子部、女子部) の生徒さんが参加され、有意義な活動がつくばキャンパスで展開されました。大学と附属学校が力を合わせることで、大きな成果を生み出すことを一段と実感いたしました。

2020 年の東京大会が来年に迫り、本番に向けて競技スケジュールや聖火リレー、ボランティアなどの計画が発表され、大会のレガシー構築とその継承に向けて、全国的なオリンピック・パラリンピック教育の充実が重要となります。IOC のオリンピックスタディセンター (OSC) の役割を担いつつ、附属学校群と連携を図りながら、国際的なオリンピック教育の発展に努めてまいりたいと思います。

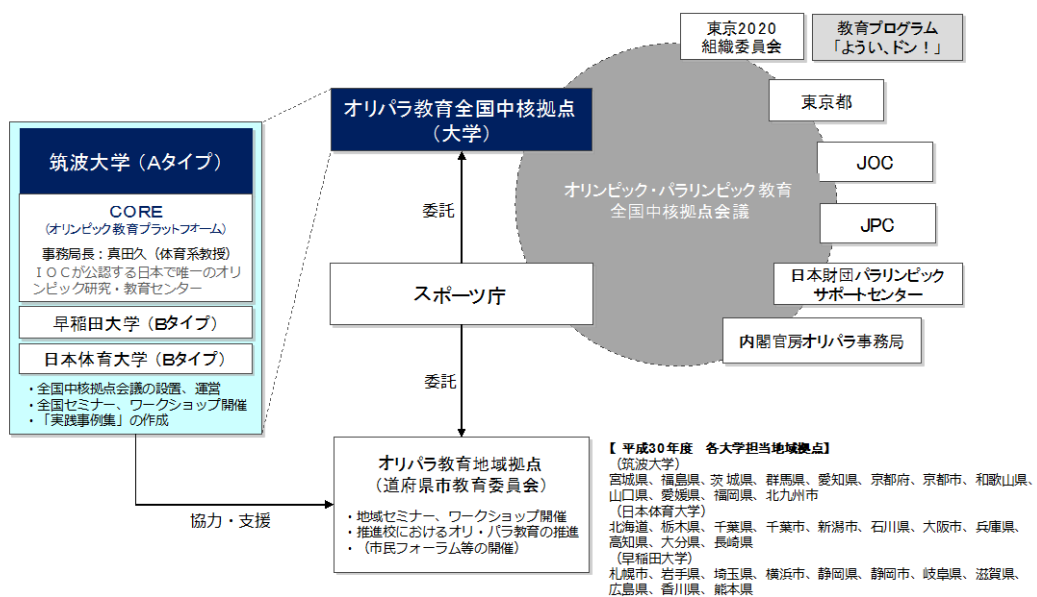
平成 30 年度スポーツ庁委託事業  
「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」について

筑波大学体育系、CORE 事務局 福田 佳太

2020 年東京大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針（平成 27 年 11 月 27 日閣議決定）において、政府は「大会開催を契機に、オリンピック・パラリンピック教育の推進によるスポーツの価値や効果の再認識を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材を育成する」ことを決定した。本事業は、この方針の実現に向けて、スポーツ庁の委託を受けた全国中核拠点（筑波大学、日本体育大学、早稲田大学）と地域拠点（平成 30 年度：計 34 地域）が連携し、学校や地域一般におけるオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを推進することを目的とするものである。

今年度、筑波大学は全国中核拠点（Aタイプ）として、次の体制およびスケジュールをもとに、主に以下の事業を実施した。

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業 推進体制図



(主なスケジュール)

時期	事業内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学内における推進体制の整備</li> <li>・各担当地域拠点との連携体制の整備</li> <li>・第1回全国中核拠点会議への参加</li> <li>・筑波大学附属学校群におけるオリンピック・パラリンピック教育のモデル授業研究・開発（～2月）</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国セミナー（第1回）の開催</li> <li>・福岡県地域セミナーへの参加および実践支援</li> <li>・各推進校等におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践支援（～2月）</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州市地域セミナーへの参加および実践支援</li> <li>・京都府地域セミナーへの参加および実践支援</li> <li>・茨城県地域セミナーへの参加および実践支援</li> <li>・山口県地域セミナーへの参加および実践支援</li> <li>・群馬県地域セミナーへの参加および実践支援</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県地域セミナーへの参加および実践支援</li> <li>・福島県地域セミナーへの参加および実践支援</li> <li>・愛知県地域セミナーへの参加および実践支援</li> <li>・第2回全国中核拠点会議への参加</li> <li>・全国セミナー（第2回）の開催</li> <li>・平成29年度における「実践事例集」の発行</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都市地域セミナーへの参加および実践支援</li> </ul>
9月	(上記事項の継続)
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛媛県地域セミナーへの参加および実践支援</li> <li>・第3回全国中核拠点会議への参加</li> </ul>
11月	(上記事項の継続)
12月	(上記事項の継続)
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回全国中核拠点会議への参加</li> <li>・福島県地域ワークショップへの参加および実践支援</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県地域ワークショップへの参加および実践支援</li> <li>・京都府地域ワークショップへの参加および実践支援</li> <li>・愛知県地域ワークショップへの参加および実践支援</li> <li>・北九州市地域ワークショップへの参加および実践支援</li> <li>・群馬県地域ワークショップへの参加および実践支援</li> <li>・山口県地域ワークショップへの参加および実践支援</li> <li>・茨城県地域ワークショップへの参加および実践支援</li> <li>・福岡県地域ワークショップへの参加および実践支援</li> <li>・京都市地域ワークショップへの参加および実践支援</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛媛県地域ワークショップへの参加および実践支援</li> <li>・全国ワークショップの開催</li> <li>・第5回全国中核拠点会議への参加</li> <li>・事業報告書冊子および事業報告用ウェブページの作成</li> </ul>

## (1) オリンピック・パラリンピック教育全国中核拠点会議への参画

スポーツ庁および関係団体（内閣官房オリパラ事務局、東京2020組織委員会、東京都教育庁、日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会、日本財団パラリンピックサポートセンター）からなる「オリンピック・パラリンピック教育全国中核拠点会議」に出席し、2020年東京大会に向けたオリンピック・パラリンピック教育の推進方法について情報共有と検討を行った。

### (日時)

- 第1回：平成30年 4月17日（火）15:00～17:00
- 第2回：平成30年 7月10日（火）14:00～15:30
- 第3回：平成30年10月29日（月）14:00～16:00
- 第4回：平成31年 1月15日（火）14:30～16:00
- 第5回：平成31年 3月18日（月）13:30～15:00（※全国中核拠点：各大学のみ）

### (場所)

- 文部科学省16階3会議室（東京都千代田区霞が関3-2-2）
- ※第2回のみ文教施設企画部会議室（旧庁舎4階）

次に、同会議で決定された本事業におけるオリンピック・パラリンピック教育における「5つのテーマ」を整理する。

## 【本事業における「オリンピック・パラリンピック教育」の内容について】

オリンピズムの教育的価値（努力から得られる喜び、フェアプレー、他者への敬意、卓越性の追求、身体・意志・知性の調和）、パラリンピックの価値（勇気、強い意志、インスピレーション、公平）の普及に向けて、以下のテーマを設定する。

- I. スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II. マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III. スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV. 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V. スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

## (2) 各地域拠点の推進校におけるオリンピック・パラリンピック教育の支援

全国中核拠点の主要な役割の一つは、地域拠点におけるオリンピック・パラリンピック教育の総合的支援である。まずは、各地域拠点のコーディネーター（担当指導主事等）を対象とした「全国セミナー」を開催し、その後に各地域で行われる「地域セミナー」に参加、とくに情報提供の面で支援を行った。そして、各推進校における教育実践をサポートし、実践報告会としての「地域ワークショップ」に参加した。年度末には、全ての全国中核拠点と地域拠点が一堂に会して成果と課題を共有する「全国ワークショップ」を開催した。



全国ワークショップ

（平成31年3月5日実施 於：筑波大学東京キャンパス文京校舎／放送大学東京文京学習センター B1 階会議室）

## クーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2018 実施報告

筑波大学附属高等学校 中塚 義実

- 【目的】** 1. オリンピック教育：日本の高校生にオリンピック・ムーブメントやオリンピズムを理解させる  
2. 選考：第12回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムへの参加者を選考する  
注) 2019年8月24日～31日、フランス・マコン市で開催。日本から高校生7名と引率教員1名が参加。参加生徒は筑波大と中京大で開かれるユースフォーラムにて選考する。
- 【主催】** 筑波大学オリンピック教育プラットフォーム (CORE)
- 【共催】** 特定非営利活動法人サロン2002 (NPO 法人サロン2002)
- 【協力】** 特定非営利活動法人日本オリンピック・アカデミー (NPO 法人JOA)
- 【期日】** 2018年12月23日(日)～25日(火)
- 【会場】** 筑波大学(茨城県つくば市天王台1-1-1 体育・芸術専門学群棟、野性の森、ダンス場等)  
宿泊先：筑波研修センター(茨城県つくば市天久保1-13-5)
- 【参加校】** 高校生 男子6名、女子18名、計24名

### 【プログラムとスケジュール概要 (実施要項より転載)】

#### ◆ 12月23日(日祝)

- 12:00～12:30 受付(5C507にて)
- 12:30～13:30 オリエンテーションおよび参加校紹介
- 14:00～18:00 野外教育活動、飯盒炊爨 ※終了後、研修センターへ移動
- 23:00 消灯

#### ◆ 12月24日(月祝)

- 06:30 起床・ラジオ体操、朝食
- 08:00 筑波大学体育・芸術専門学群棟へ移動(徒歩約20分)
- 08:40～09:30 講義① ピエール・ド・クーベルタン(田原淳子)
- 09:40～10:30 講義② 嘉納治五郎(真田 久)
- 10:40～11:30 講義③ 国際人としてのおもてなし(江上いずみ)
- 11:30～13:00 昼食・休憩
- 13:00～15:00 演習① IOCのOVEP教材を用いたグループ活動(宮崎明世)
- 15:00～17:00 実技：体操・Gボール(鈴木王香) ※終了後、研修センターへ移動
- 18:30 夕食
- 19:30～21:30 演習② オリンピック・パラリンピックについての英語による討議
- 23:00 消灯

#### ◆ 12月25日(火)

- 06:30 起床・ラジオ体操、朝食、移動
- 09:00～09:50 演習②の報告
- 10:00～11:00 筆記テスト(オリンピック・パラリンピックに関する内容※出題採点はJOA)
- 11:00～12:00 総括・閉会式



-----  
【プログラムとスケジュール詳細】

< 12月23日（日祝） >

◆ 12:00 ~ 12:30 受付（5C507）

※受付時に参加費（一人 12,000 円）徴収。個人写真撮影（野外活動中に写真入り名簿完成）

◆ 12:30 ~ 13:45 ガイダンスおよび参加校紹介（5C507）

- 1) あいさつ（宮崎明世 / CORE 運営委員）
- 2) ガイダンス（中塚義実 / CORE 運営委員・NPO 法人サ  
ロン 2002 理事長・コーディネーター）  
・本フォーラムの位置づけと全体日程  
・国際ピエール・ド・クーベルタン YF とは  
・筆記試験の課題と評価の観点  
「あなたは学校でどのようにオリビズムを推進したい  
と思いますか。具体的に述べてください」
- 3) 参加校（3 校）紹介  
各校 10 分で、事前に用意してきたスライドを用いて紹  
介した（10 分では収まり切らなかった）。  
→ 更衣の後、「野性の森」へ移動



学校紹介は各校とも充実の内容

◆ 14:15 ~ 19:00 野外活動・飯盒炊爨（野性の森）

・筑波大学野外運動研究室の坂谷充特任助教（筑波大学体育系）ほか 5 名のスタッフで進行。

- 1) 体ほぐし&グルーピング  
・全体で簡易ゲームで体と心をほぐす（2 人組の体ほぐし運動、ジャンケンゲームなど）  
・男女混合、学校混合で 3 班に分かれ、それぞれに野外研究室の院生・学生がつく
- 2) グループごとに A.S.E.（Action Socialization Experience）  
円陣ボール投げ（名前を呼ぶ） / 丸太の上を全員で移動 / 全員で手つなぎ→ほどく / 綱渡り / 壁乗り越え / ターザン /  
← これらをグループごとに 4 ~ 5 種目
- 3) 野外パーティ  
・グループごとに異なる料理を作る



「ターザン」になって全員が移動



最後の一人がジャンプ！



教員チームの担当はサラダ



野外パーティでテンションも上がる

- ◆ 19:00 「野性の森」を出発。徒歩で研修センターへ 19:15 研修センター着 入浴・自由時間
- ◆ 19:30～20:00 教師 MTG
- ◆ 22:30 門限
- ◆ 23:00 消灯

※小雨が降るあいにくの天気だったが、大降りになることもなく、またスタッフの準備も万全で、予定どおり進めることができた。野外活動ではスタッフの方々の働きかけが素晴らしく、参加生徒は一気に打ち解ける初日のプログラムであった。

※個室なので、門限まではロビーや友だちの部屋で過ごすのが、23時には男子も女子も静かになった（疲れ切っていたのかもしれない）。

< 12月24日(月) >

- ◆ 6:30 起床・ラジオ体操
  - ・NHK ラジオでラジオ体操第一と第二。「できる人」が前に立つ（「やったことがない」生徒もいた!）
- ※この時刻にラジオ体操を開始できるよう、各自で起床時刻を設定。遅刻者はいなかった。
- ◆ 7:00 朝食
  - ・各自トレーを取って席について食事。全体での食前食後のあいさつはなし（他の宿泊者もいる）



ラジオ体操中に少しずつ明るくなる



研修センターの食堂にて

- ◆ 8:00 出発（徒歩約20分）

◆講義 (5C507)

- 1) 8:40 ~ 9:30 オリンピックの歴史とピエール・ド・クーベルタン (田原淳子)
- 2) 9:40 ~ 10:20 嘉納治五郎 - オリンピックと長距離走 (真田久)
- 3) 10:30 ~ 11:30 国際人としてのおもてなしの心 - グローバルに活躍するために (江上いずみ)

※ 50 分刻みの講義は、高校の授業と同じなので、生徒たちは集中を切らすことなく各講義に臨んでいた。質問も積極的に出ていた。

※ 講義後、全員で学生会館へ移動。記念写真とギャラリー見学



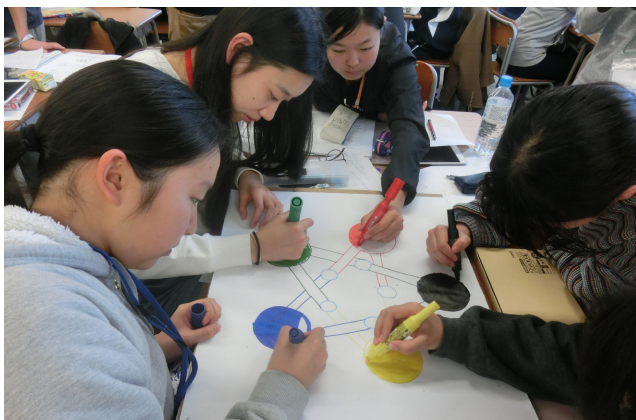
◆ 11:30 ~ 13:00 昼食・休憩

◆ 13:00 ~ 15:00 演習① OVEP 教材を用いたグループ活動 (宮崎明世)

「オリンピック・シンボルを考えよう」

- 1) オリンピック・シンボルを書いてみよう
- 2) オリンピック・シンボルが作られた時代について
- 3) 新しいオリンピック・シンボルを作ってみよう【グループ活動】

※ 限られた時間の中で発表まで持って行くにはタイムマネジメントが重要。5 班に分かれてのグループ活動は、班ごとの個性があふれ、おもしろかった。



グループで「新しいオリンピックシンボル」考案中



シンボルに込めたメッセージを発表

◆ 15:00 ~ 17:00 実技：体操・Gボール（鈴木王香） 於総合体育館。終了後研修センターへ移動

1) ペアでチャレンジ！

2人組で体ほぐしのあと4カ所を回りながら次の運動にチャレンジ。LEVEL1～3or4まであり。

①バケツキャッチ、②クッションだるま落とし、③コンビde縄跳び、④ギザギザBallキャッチ

2) ペアでGボール

3) グループでGボール

※今回のスポーツ活動は「競争」よりも「協働」。笑いの絶えない活動となった。2人組の体ほぐしからペアでさまざまな運動にチャレンジ！できそうでできない、けど挑戦するうちにできてしまう、絶妙な課題だった。Gボールも、ペアで取り組むものから4人組、最後は8人組の大所帯で取り組むものまで、とにかく楽しめた。教員チームも知らぬ間に加わっていた。



クッションだるま落とし。結構難しい



最後は8人組で。笑いが絶えない

(空き時間を見つけて入浴)

◆ 18:30 夕食

◆ 19:20 ~ 21:30 演習② オリンピック・パラリンピックについての英語による討議

1) ガイダンス（嶋崎）

- ・性別・学校が分かれるよう4班に編成した。
- ・テーマは「2020年に何を遺すか」。1964のレガシーと2020の状況についての講義あり
- ・和室に入ったら日本語を使用してはならない。21時になったら日本語解禁。翌日の発表に備える  
翌日は、各班7分間でポスターを用いて発表する。質疑の時間を取る
- ・補足：討議を進めるうえでのヒント（皆川）  
各自が考えたことを付箋に書いて貼っていくとよい。「黙っている」のがダメ。

2) グループ討議

- ・3Fの和室に分かれて討議。テーマは「2020年に何を遺すかーわたしたちには何ができるか」

※多くの生徒が心配していた英語での討議。英語に堪能な生徒がリードしていく様子はいつも通りだが、今回は誰もが積極的に関わろうとする姿勢が見られてよかった。日本語解禁となったとき、「日本語で伝えあうことができるありがたさ」を皆が感じていたようだ。

- ・21:30には部屋を出て、ロビー等で続きの作業。終わったグループから解散。23:30門限

◆ 21:10 ~ 21:40 教師 MTG



関係するものをつなげてみると



まずは付箋にいろいろ書き込み討論へ

◆ 23:00 消灯

※グループ討議を終えて和室を出てからも、翌日の発表準備をしているところが多かった。各自の部屋へ戻ってからは、疲れ切ったのか、静かに寝ていたようだ。

< 12月25日(月) >

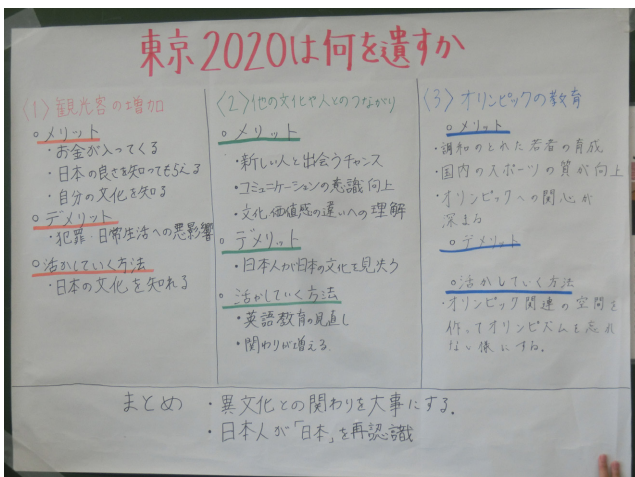
◆ 6:30 起床・ラジオ体操

◆ 7:00 朝食

※グループごとに大学へ移動して発表準備に取り掛かる

◆ 9:00 ~ 10:10 演習②の報告

・進行は嶋崎氏。各班7分程度のプレゼンテーション。その後、質疑。



※いずれも力作ぞろい。英語での討論とその後の日本語でのまとめ。それを模造紙に書き出す作業は大変だったろうが、いずれもよくできていた。高校生の可能性を感じさせる内容だった。

◆ 10:10 ~ 11:10 筆記テスト

第12回国際 YF (2019年8月24-31日, 於マコン) の標語 Olympism at school. It must be encouraged! を受けて、「あなたは学校でどのようにオリンピズムを推進したいと思いますか。具体的に述べてください。」

評価の観点、次の4項目。

- ①オリンピズムに関する理解ができている
- ②根拠を示した具体的な提案がなされている
- ③独創性および波及効果のある提案がなされている
- ④日本語が正しく使用され、論理的な記述がなされている

参考資料は持ちこんでよい。スマホを用いて調べるのも可。時間は60分。書き終えたら退室可。

※初日に課題を伝えてあったからか、みなたっぷり書いていた。



最後は筆記テスト。みな真剣です。



「一番遠くに帰る人」が最後のあいさつ

◆ 11:30 ~ 12:10 クロージング

1) 全体の振り返りと今後の見通し (中塚)

2) 引率者・スタッフからのコメント

CORE スタッフ (宮崎氏、大林氏、鈴木氏、福田氏)、引率教諭 (内田氏、山田氏、西氏)、NPO サロンスタッフ (嶋崎氏)、コーディネーター (中塚) の順にコメントした。

3) 修了証の授与 (真田氏)

4) 参加者からのコメント

「参加者の中で最も遠くに帰る人」にコメントを求めた。

5) 事務局からの「サプライズ」

研修センターの使用料が12月から安くなったため一律1,000円の返金。

さらに「クリスマス」のサプライズでお菓子セット配布 (ジャンケンで勝った者はスペシャル版)。

6) アンケート提出・解散

参加者はアンケートを提出。提出後、解散

※コーディネーターからは、①あきらめない、②一人でやらない&人に依存しない、③ソーゾーリョク (想像、創造) を働かせることの重要性を語り、最後に「忘れない」ことを求めた。たった2泊3日であったがとても有意義なフォーラムであった。

# 「学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の実態と成果 - 2016・2017年度の『全国展開事業』報告書の分析から-」日本スポーツ教育学会第38回大会（広島大学）口頭発表

筑波大学体育系、CORE事務局 宮崎 明世

2018年10月13日(土)、14日(日)に広島大学教育学部において開催された、日本スポーツ教育学会第38回大会において、「学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の実態と成果-2016・2017年度の『全国展開事業』報告書の分析から-」のタイトルで口頭発表を行った。本研究は、東京都が示す教育推進の本格的な開始期にあたる2年間について、全国展開事業の教育推進校報告書からその活動の実態および成果を明らかにし、今後のオリンピック・パラリンピック教育の推進に役立てることを目的とした。

研究の背景として、東京都のオリンピック・パラリンピック教育の「段階的な取り組みの推進」(東京都教育委員会,2016)を取り上げ、2016年9月から2017年は各学校が本教育を本格的に開始する時期(第Iフェーズ)として位置付けていること、大会開催前の教育プログラムについて評価する必要があることを示した。本研究の方法は、筑波大学が担当した自治体の内、対象とする2年間に継続して全国展開事業に参加した1府3県の2016年度111校、2017年度140校を対象として、各校が年度末に提出した報告書の中から、活動内容、成果と課題について分析した。

結果として、活動内容を「講演・体験」、「学習」、「日常生活」、「学校行事」、「交流」の категорияに分類した。最も多く行われたのはオリンピックやパラリンピアン、またはスポーツ選手の講演や体験学習で、スポーツ以外の内容では、おもてなし講座、障がいそのものの体験、伝統文化の体験なども行われていた。「学習」の категорияでは、オリンピックやパラリンピックについての学習や調べ学習が多かったが、2017年にはパラリンピックの教育プログラムである「I'm POSSIBLE」を活用した事例が増えた。

成果について活動テーマごとに分類したところ、テーマに沿って例えばオリンピック・パラリンピックそのものとその意義や価値に関する知識・理解が深まったことや、障がい者や障がいそのもの、障がい者スポーツへの理解が深まったことなどが挙げられた。このように、取り組んだ内容についての理解が深まり、興味・関心を高めることには成功していると言える。さらにすべてのテーマに共通する「価値」に関する成果では、「挑戦すること、努力すること」「相手を思いやる気持ち」「あきらめない心」「自信を持つこと」などが挙げられた。

課題について分類したところ、「計画や組織」、「プログラムの内容」、「方法・運用の仕方」「環境整備」「成果」に関することが挙げられた。「計画や組織」に関することでは、年間計画への位置付けや早い時期からの計画が必要であること、一過性の取り組みになることへの懸念から継続的に取り組むことも課題として挙げられた。また、教材の普及が不十分であること、教材の紹介だけでなく指導法などの丁寧な研修が必要であることが挙げられた。さらに、活動内容として最も多く行われている講師を招いた講演や体験活動について、講師の選定や交渉、日程の調整などが難しいことが圧倒的に多かった。

本研究発表では、推進校の報告書を分析して、実態や成果と課題を明らかにしたが、今後は活動と成果の対応を明確にすること、児童生徒を対象とした評価を行うことが課題である。

## 結果① 2016-2017年度のプログラムの成果 (テーマ別)

テーマ	成果	2017		2016		合計	
		数	%	数	%	数	%
1 スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学び	オリンピック・パラリンピックに関する知識・理解が深まった	18	12.9	14	12.6	32	12.7
	オリンピック・パラリンピックの意義・価値に関する知識・理解が深まった	10	7.1	8	7.2	18	7.2
	その他	0	0.0	1	0.9	1	0.4
2 マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成	あいさつや礼の仕方が身に付いた	3	2.1	1	0.9	4	1.6
	その他	14	10.0	0	0	14	5.6
3 スポーツを通じたインクルーシブな社会(共生社会)の構築	障がいや障がい者への理解が深まった	29	20.7	19	17.1	48	19.1
	障がい者スポーツへの理解が深まった	12	8.6	17	15.3	29	11.6
	共生社会に対する理解が深まった	14	10.0	5	4.5	19	7.6
4 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解多様性を尊重する態度の育成	外国や外国文化への理解・関心が高まった	13	9.3	12	10.8	25	10.0
	地域への理解・関心が高まった	10	7.1	9	8.1	19	7.6
	その他	13	9.3	0	0	13	5.2
5 スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成	オリンピック・パラリンピックに対する関心が高まった	78	55.7	32	28.8	110	43.8
	スポーツ(種目)に対する関心・意欲が高まった	46	32.9	18	16.2	64	25.5
	スポーツの楽しさ、素晴らしさ	11	7.9	11	9.9	22	8.8
	スポーツの理解	5	3.6	3	2.7	8	3.2
その他	技量の向上	9	6.4	4	3.6	13	5.2
	交流を深められた・他者との関わり	5	3.6	6	5.4	11	4.4
	オリンピック種目の教材化、効果的な練習法	12	8.6	14	12.6	26	13.4
	その他	3	2.1	6	5.4	9	3.6
	その他	2	1.4	13	11.7	15	6.0

## 結果②

### 2016-2017年度のプログラムの成果 (価値に関する記述)

	2017(n=140)		2016(n=111)		合計	
	数	%	数	%	数	%
挑戦すること、努力することが身に付いた	15	10.7	20	18.0	35	13.9
相手を思いやる気持ち	13	9.3	15	13.5	28	11.2
あきらめない心	11	7.9	8	7.2	19	7.6
自信を持つこと、自己肯定感が高まった	4	2.9	8	7.2	12	4.8
達成感を感じられた	2	1.4	2	1.8	4	1.6
その他	5	3.6	3	2.7	8	3.2

<上記以外の成果>

2017：日頃の自分を振り返ること、前向きな心を持つこと・ポジティブに考える、自主的に行動すること、夢を持つこと、友人の良いところを見付ける、視野を広げる・将来を見据える、目標を持って生きること、フェアプレイ

2016：積極的に取り組む姿勢が身に付いた、日頃の行動の変化(挨拶やマナー)、意欲が高まった、主体的に取り組めるようになった、発展的な学習へのつながり、協力して成し遂げることへの理解、困難に立ち向かう強さへの共感

## 日本体操学会第18回大会 参加報告

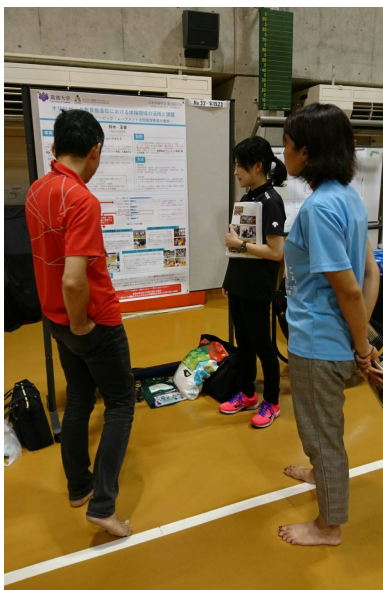
筑波大学体育系、CORE事務局 鈴木王香

2018年9月14日（金）、15日（土）に女子栄養大学にて日本体操学会第18回大会が開催され、ポスター実践報告を行った。題目：「オリンピック教育推進校における体操領域の活用と課題～オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業の事例～」

スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」では、オリンピック・パラリンピック教育における5つの学習テーマが設定されており、そのひとつに「スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成」がある。本報告は、平成29年度の筑波大学担当地域拠点（7地域187校）を対象に、このテーマのもと推進校がどのような実践を行なったかを調査することで、体操領域がオリンピック・パラリンピック教育に果たす役割に関する知見を得ることを目的とした。

平成29年度の事業実施報告書によると、上記テーマで実践を行なった推進校は120校にのぼる（他テーマとの重複を含む）。その中で、体操や体づくり運動に関連する実践は6校（幼稚園：1校、小学校：3校、高等学校：1校、特別支援学校：1校）認められた。幼稚園、小学校では、「〇〇（学校名）オリンピック」と称して多様な運動に挑戦する取組や、児童が新しいオリンピック種目を創造するといった取組がなされた。高等学校では、小高連携事業として高校生が小学生に体づくり運動を指導する取組がなされた。また特別支援学校では、近隣高校との交流および共同学習として体育内で一緒に行える運動を実施する取組がなされた。ポスター実践報告では、本事業の概要とともに、これらの実践について紹介した。

本学会では、オリンピック・パラリンピックに関する発表事例は他に見受けられなかった。しかし、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした身体活動や体操の研究が多く実施されていることから、「スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成」に適う取組はもとより、社会体育としてのオリンピック・パラリンピック教育、ひいては全国的な機運醸成にも寄与する可能性があると考えられる。今後、さらに体操領域での研究の必要性を感じる機会となった。



写真：ポスター実践報告の様子

体操・体づくり運動関連の内容		
<p><b>Kオリンピック・げんきっこ体操</b> (K市：T幼稚園)</p> <p>【Kオリンピック】毎朝20分様々な運動に挑戦した。 屋外(10～11月)：縄跳び、竹馬、フラフープ、リレー等 屋内(1～2月)：トランポリン、跳び箱、マット、平均台等 【げんきっこ体操】リズム体操や器械運動をし、音楽に合わせて体を動かす楽しさや柔軟性、バランス感覚を高めた。</p>  	<p><b>できるかな？プロジェクト</b> (K府：T小学校)</p> <p>毎月3種目、休み時間に多様な運動や体操種目に挑戦した。 体育委員会が目標達成者に特製シールを配布し児童の励みとなった。保護者向けの広報誌に掲載し家庭でも取り組めるようにした。 例) 4月：ロープバトンスロー、グーバー、立ち幅跳び 7月：手押しすもう、馬跳び、フロントブリッジ</p> 	<p><b>〇〇オリンピック・児童集会</b> (F県：F小学校)</p> <p>【体育】各学年で「〇〇オリンピックをしよう」という目的を設定した単元を実施した。 例)1学年：こんなうごきできるかな(体づくり運動) 2学年：やってみよう ぶらぶらくるりん(鉄棒運動) 【児童集会】全校生徒縦割り班対抗で多様な運動を実施した。 例)空き缶つみ、新聞から落ちちゃダメ、豆つかみ、みんなでなわとび</p> 
<p><b>オリンピック種目の創造</b> (F県：O小学校)</p> <p>自分達で新種目を考案した。採用された種目は実際に体育、縦割り班活動、校内のスポーツ集いで体験した。 ショット綱引き(写真左) スカットやり投げ(写真右)</p>  	<p><b>小高連携事業</b> (K府：K高等学校)</p> <p>高校2年生が小学校1年生に対し2年間を通じた体づくり運動を指導した。 1年目は交流と信頼関係を築くため、自然体サランバなど遊びを交えた実践。2年目は小学生の体刀の実態を踏まえた実践を行った。</p> 	<p><b>高校との授業交流</b> (K府：Y支援学校)</p> <p>スクールパートナーであるK高等学校との交流及び共同学習の中で、「体育」授業交流を実施した。 実施内容：自己紹介、ボール運びリレー、フライングディスク、ドッジビー、感想発表</p> 

図：平成29年度における体操・体づくり運動関連の実践内容



2018年7月18日～21日、国際体育・スポーツ史学会の第19回大会がドイツのミュンスターで行われた。本大会では、オリンピック教育研究の第一人者である Roland Naul 氏（“Olympic Education”, Meyer & Meyer Sport 社, 2008 の著者）がホストを務め、“History of Olympic Education in Japan and Germany” を主題とする国際シンポジウムが開かれ、CORE から真田久教授と筆者が招待講演者として参加した。タイトルと登壇者は次の通りである。

1. The History of Olympic Education in Japan Prior to the 1964 Tokyo Olympics  
Taro Obayashi, University of Tsukuba, Japan
2. The history of Olympic Education in Japan – Nagano 1998: The “One school One country” Programme and Tokyo 2020: You-I-Don! Programme”  
Hisashi Sanada, University of Tsukuba, Japan
3. Historical Evolution of Olympic Values Education Including a Comparison and Contrast of Assimilation Patterns for the IOC OVEP Programme in Germany and Japan  
Deanna Binder, Royal Road University Victoria, Canada
4. Different historical pathways – different concepts of Olympic Education in Germany  
Roland Naul, Willibald-Gebhardt Institute Münster

内容は、日本とドイツにおけるオリンピック教育の歴史的経緯と現状を確認するとともに、国際オリンピック委員会（IOC）が発行する OVEP: Olympic Values Education Programme の初版作成に尽力された Deanna Binder 氏の話題提供により、それぞれの特徴と国際的なムーブメントにおける両国の役割、また東京 2020 大会後のレガシーの在り方を確認するものであった。

なお、各登壇者の発表に関連する内容は、2017 年発行の“Olympic Education: An International Review”（Routledge 社より）に掲載されている。本書はオリンピックやスポーツ教育、コーチングなどを専攻する研究者や学生を対象に、オリンピック教育の歴史と現状を説明する書籍である。関係の皆様参照されたい。



左から、真田教授、Naul 氏、Binder 氏、大林（筆者）

## ブエノスアイレス・ユースオリンピック視察報告

筑波大学体育系、CORE 事務局 大林 太郎

2018年10月6日～18日にかけてアルゼンチンのブエノスアイレスで開催された、第三回夏季ユースオリンピックにおける文化・教育プログラム（CEP）の視察を行った。ユースオリンピックでは競技とともにCEPが実施され、参加する若いアスリートが各世代のロールモデルとしての役割を学ぶ機会が設けられている（詳細は下記のリンク1を参照）。今回もアルゼンチン開催の特色を生かした各プログラムが実施され、例えば、オリンピック・パークの中には4つのテーマ（①Sustentabilidad（持続可能性）、②Arte（芸術）、③Naturaleza（自然）、④Tecnologia（技術））について、体験的な学習に参加できるブースが設けられていた。

下記の写真には、①の例としてソーラー電池づくり、②の例として合成写真技術を活用したアート作品への参加の様子を掲載した。各ブースにはボランティアスタッフが配置され、アスリートや校外学習の一環とみられる近隣の小・中学生に対する説明と対応を行っていた。また各ブースの他にも、競技体験やウォールアート、アルゼンチンタンゴの体験など、様々な仕掛けが用意されていた。

また、今回の視察中にはユースオリンピックにさきがけて行われたOlympism in Action Forumに、本学のベントンキャロライン副学長（国際担当、IOCオリンピック教育委員会委員）に同行して出席する機会を得た。ここでは2日間にわたり「オリンピック休戦」、「女性とスポーツ」、「アンチ・ドーピング」などのオリンピック・ムーブメントに関する諸課題が多様な論者により議論されており、とくに2016年のリオデジャネイロ大会における難民選手団の男女二名のインタビューや、e-sportsの位置づけに関するオープンなディスカッションが印象的であった。会場には関係団体のゲスト、オリンピックスタディーセンター（OSC）の研究者やジャーナリスト、さらにはユースオリンピックに参加する若いアスリートの姿もあった。会議の詳細は下記のリンク2を参照されたい。

（参考リンク）

1) <https://stillmed.olympic.org/media/Document%20Library/OlympicOrg/Games/YOG/Summer-YOG/YOG-Buenos-Aires-2018-Youth-Olympic-Games/YOG-Brochure-Buenos-Aires-2018.pdf>（2019.4.12 閲覧）

2) <https://www.olympic.org/olympism-in-action/>（2019.4.12 閲覧）



ソーラー電池づくり



合成写真技術を活用したアート作品づくり



オリンピック・パーク内のダンスレッスン



Olympism in Action Forum 会場

## 第2回なないろスポーツフェスタ報告

筑波大学体育系、CORE事務局 福田 佳太

2019年3月17日（日）、つくば市の洞峰公園にて第2回なないろスポーツフェスタが開催された。なないろスポーツフェスタとは、筑波大学体育系が中心となりオリンピック・パラリンピックの持つ7つの価値を共有する「スポーツと教育」のイベントである。今年は、「なないろリレーマラソン」「なないろ駅伝」「なないろファミリーラン」「教育プログラム」の4つのプログラムが実施された。

COREでは、「教育プログラム」の一環として「古代オリンピックを体験しよう！」をテーマに、古代オリンピックの競技の体験を通して、オリンピックの価値（卓越・友情・敬意・尊重）を子どもたちに伝えるプログラムを実施した。このプログラムでは、オリンピックの意義や価値（卓越・友情・敬意・尊重）、古代オリンピックについてクイズ形式で子どもたちに伝えるとともに、古代オリンピックの競技の体験としてスタート装置ヒュスプレクスを使用したスタディオン走とハルテレス（錘）の代わりにペットボトルを使用した立ち幅跳びを行なった。また、古代ギリシャの伝統衣装であるキトンの着用や表彰式での葉冠の授与など、古代オリンピックを彷彿とさせる工夫もした。このプログラムを通して、子どもたちは古代オリンピックの競技の体験のなかで、オリンピックの価値（卓越・友情・敬意・尊重）を学ぶ機会を得た。COREでは今後もこのような活動を通じて、子どもたちにオリンピックの意義や価値などを伝えていきたい。



クイズの様子



ヒュスプレクスを使用したスタートの様子



ハルテレスを使用した立ち幅跳びの様子

ようこそ東京オリンピックへ

本実践では、オリンピックを通して、歴史、諸外国について興味をもつことをねらいとした。また、各自の調べ学習では、1964年東京オリンピックには出場していなかった国に着目しました。

① DVD 教材を観る。

過去のオリンピック、嘉納治五郎、クーベルタンについて。  
記録映画「東京オリンピック」(市川崑監督)

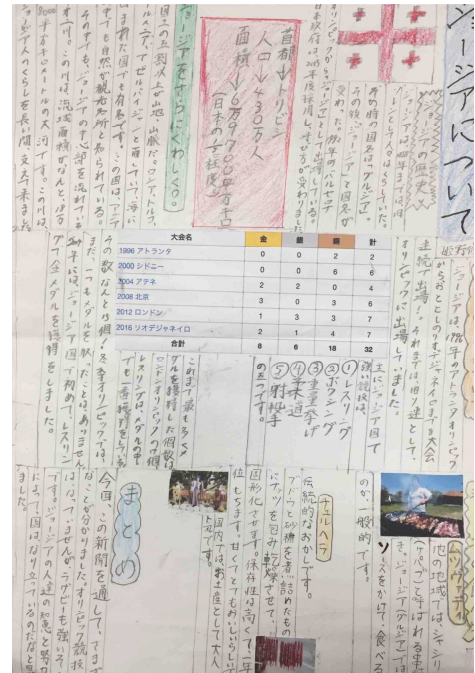
② 世界にはどのような国があるのか？

白地図と地図帳を使って世界の国々について調べる

③ 1964年東京オリンピックに参加していない国を調べる

インターネットや書籍を用いて当時の東京オリンピックに参加している国とそうでない国に色分けを行った。

④ リオデジャネイロオリンピック参加国を参考にして東京に初めて参加する国を抽出し、その中で気になる国について一人一人が調べる。



あまり身近ではない国について調べていたり、知っている国でも1964年には参加していない国に興味を持っていた。各国の文化(食事や言葉)、地理的な位置、その国で盛んに行われている競技について知ることができた。

## 6年生「オリンピック・パラリンピック教育」活動報告

筑波大学附属小学校 2部 6年担任 佐々木 昭弘

### 1. 活動の概要

第4学年から様々な表現活動（合唱、リコーダー演奏、カホン演奏、ダンス）を「総合活動」の時間に設定してきた。そして、第6学年での「児童発表」（11/4）で、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けての子どもたちの思いを、これまでの表現活動を取り入れた劇で発表した。

### 2. 活動の実際

#### ◆自作カホンでリズム練習

本校音楽部に紹介してもらい、南米ペルーの民族楽器である「カホン」のキットを購入した。外国の楽器の面白さに触れることができた。

#### ◆リコーダーの基礎練習

リコーダー演奏の基本的な技術である「タンギング」「フィンガリング」「プレス」等の練習を様々なリズムでのスケールで行い、技能の定着を図った。

#### ◆合唱の練習

嵐のヒット曲である『ふるさと』の二部合唱を1年間かけて練習してきた。音の重なりや響きを、子どもたちは少しずつ感じ取れるようになっていった。

#### ◆劇「最初で最後のコンサート」の発表

これまでの表現活動をすべてを取り入れた劇『最初で最後のコンサート』を発表した。

東京オリンピック・パラリンピックが開催されることによって、世界中の国々から観光客が訪れる。“お・も・て・な・し”のためには、英会話が大切であることを、英語の曲を歌うことで伝えた。

また、各国のオリンピック・パラリンピックで目にする競技種目のピクトグラムが、実は日本人の発明であることや、金メダルが携帯電話の部品に使われている金を集めて作られる計画があることを、練習の過程で知ることができた。

劇のエンディングでは、いただいた補助金でプロに編曲していただいた嵐のヒット曲『ふるさと』を、レンタルしたエレクトーンの伴奏を入れた合唱を披露することができた。

東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、子どもたち一人一人が主体的に向き合うきっかけの一つになってくれることを願う。



## 附属中学校の取り組み

附属中学校 山形 友広

### 1. 教科学習

#### (1) 1年生

- ・英語科：11月、中学1年生の教科書“New Crown I” Lesson 7において、ウィルチェアーバスケットボールとゴールボールが本文で話題となっていたため、授業担当者が競技の動画を紹介し、生徒の認知度を尋ねるなどの実践を行った。
- ・数学科：中学1年生を対象に、パラリンピックのエンブレムがもつ数学的法則を見だし、作成していく授業実践を7月におこなった。
- ・社会科：中学1年生の歴史的分野において、5月に古代オリンピックの歴史を学んだ時に、現在のオリンピックが持つ課題点について考察し、理想のオリンピックはどんなものかを各生徒に考えさせる授業実践を行い、「古代オリンピックをふまえて、理想のオリンピックを提案しよう」という問いを考査で出題し、考査返却時には生徒たちの多様な理想像を紹介し、オリンピックについての考察を深める機会の1つとした。

#### (2) 2年生

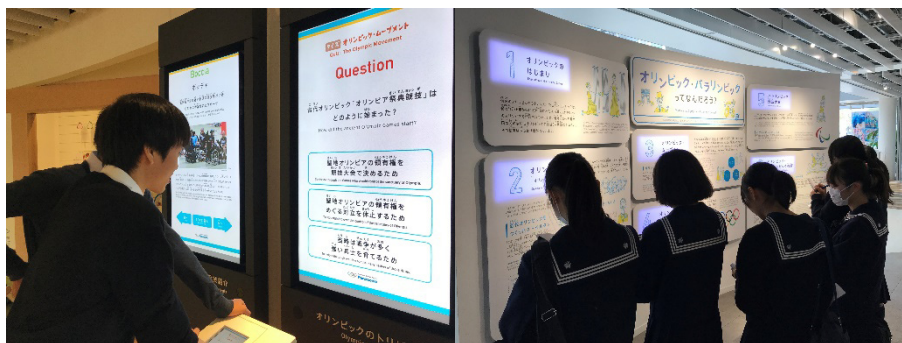
- ・社会科：中学2年生の歴史的分野において、学習している明治時代に関連させた形で、本校との関連や1月から放送されている「いだてん」における金栗四三や嘉納治五郎などの登場人物について説明をおこない、幻の東京オリンピックについての理解を深める実践を行った。

#### (3) 3年生

- ・保健体育科：体育科の授業において、6月から10月にかけて男女共修でクラスごとにローテーションしながらボッチャやブラインドサッカーなどのパラスポーツを2週間ごとに交替しながらおこなった。

### 2. 総合的な学習の時間《対象者：2年生コース選択者、3年生コース選択者》

- (1) 2年生：オリンピック・パラリンピックを通してスポーツを多角的にみることをテーマとしたコースが開設した。パラリンピックスポーツを実践したり、パナソニックセンター東京への見学を行ったりした。また、「おも活（日本ケアフィット共育機構）」を実施し、町中で困っている様々な人を想定した援助活動の実際とその意義を学んだ。



生徒がパナソニックセンター東京を見学

- (2) 3年生：生涯体育としてスポーツに親しむ目的から、オリンピック種目になるものを創造させる授業実践を行った。

### 3. HR 活動《対象者：1・2年生全員》

平成31年2月22日（金）に徳南堅太選手（フェンシング・サーブル日本代表、2016リオデジャネイロオリンピック代表）より中学1年生、2年生を対象とした講演ならびに質疑・応答を行った。テーマを「夢の変遷」として、クイズを随所に盛り込み、ユーモアを交えながら生徒に語りかけるような講演に生徒は聞き入っていた。また、日本代表ジャージでの講演、さらに持参していただいた私物のフェンシング用具を休憩時間中に生徒が体験することができ、大変有意義な時間となった。



以下に生徒の感想の抜粋を紹介する。

(1年生の感想より)

- 今回、徳南選手のお話を聞いて、とても尊敬しました。自分がオリンピックに出場するために環境を変えたことや、個人所属になってすべて自己責任にするなど、他人に頼ることなく自分で貫いていくのはとてもすごいと思いました。私は習い事をしています。去年の大会では2位でした。しかし、部活も大変になってきたため習い事を辞めようか迷っていました。でも徳南選手のお話を聞き、「2位のまま辞めたら後悔しかないな」と思い、これからも続けようと決心しました。
- 世界で活躍する人達は、小さい頃から1つの夢に向かってぶれることなく生きてきた人だけなのかと思っていました。しかし、今回の講演を聞き、夢は一つでなくてもいいと知ることができました。また、どんな選手でもその目標のために人一倍の努力をしているのだと思いました。特に、バスケ、剣道、フェンシングと全然似ていないようなスポーツを、それぞれ一生懸命取り組んだというのはすごいなと改めて感じることができました。

(2年生の感想より)

- 僕は今自分に明確な夢はありません。その理由の一つには、やはりなれないだろうなというネガティブに考えている自分がいるからだと思います。ですが、徳南選手の話聞いて、夢は何度変えても大丈夫、失敗した後にその失敗から逃げずに追求していくことで夢が叶うのだなと感じました。
- はっきりとした夢を持っていなくても、自分で切り開いていくことで、また新たな夢をみつけられるとわかり、とても勉強になりました。私は、自分に甘いところがあるので、自分に厳しくしたいです。
- 本気でやるだけではなく、自分自身のことも夢のこともすべてよく向き合うようにしたいです。今回の講演でたくさん勇気をもらうことができました。

#### 4. 附属中学校としての「オリンピック教育」の可能性と今後

これまで行われてきた、保健体育科の教員が担当する授業や総合学習のコース、所属学年のHR活動などの実践に加え、本年度は教科や領域を超えての実践に力を入れ、多くの教科での実践を開発することができた。

東京オリンピックが近づくにつれて、多くの教科でも生徒の教科学習への意欲・関心を高めるための工夫として、オリンピック・パラリンピックを題材や授業での導入の話題としてとりあげることが容易になりつつある状況を感じ取ることができた。生徒がオリンピック・パラリンピックを多面的・多角的な視点から理解を深めるためには、さまざまな切り口から学びを深める必要がある。そのために本校の実践例が参考となれば幸いである。

今後の課題としては、①授業実践として工夫された上記のコンテンツが中学校3年間の学習指導の計画の中で有機的に結びつくことができるかどうか、またこうして開発されたコンテンツが、②東京オリンピック後にも生かせる「持続可能」な授業内容なのかどうかについても検討・修正等に加え、新学習指導要領下での授業の充実とオリンピック・パラリンピック教育の両立の可能性を検討してまいりたい。

## 附属高校の取り組み

附属高等学校 鮫島 康太

### 1. 日常の活動として

保健体育科を中心とする日々の授業や学校行事、部活動等、学校における教育活動全般にわたって「オリンピズム」を学ぶ姿勢は、嘉納治五郎校長の頃から本校が取り組み、いまでも受け継がれている。とくに保健・体育理論の授業では、オリパラを題材にした授業や、それに付随する様々な問題を取り上げて生徒に思考させる授業が行われ、生徒の問題意識を育む貴重な場となっている。様々なスポーツ場面を身近なものとしてとらえ、そこから多くのことを感じ学ぶ姿勢を養うことがオリンピズムであると考えれば、本校で行っている「スポーツ大会」、学校をあげて戦う他校との「総合定期戦」なども、オリパラ教育の代表的な一例として挙げることができる。今年度も生徒が中心となって準備・運営し、互いに応援し合いスポーツを楽しむ場面が多く見られた。

### 2. スーパー・グローバル・ハイスクールとしての取り組み (2018 年度で SGH の指定終了)

本校の一つの柱として挙げられるのが、「SGH スタディ (総合的な学習の時間・土曜日実施、各学年 1 単位)」である。1 年次では研究調査に関する手法 (データ収集、統計など) を学習する。2 年次と 3 年次前期までの期間で課題研究を行い、最終的に論文を作成するというものである。

2 年次の大まかな流れは、4 月にオリエンテーション、SGH スタディで取り組む 3 分野 (①オリンピック・パラリンピックにおける諸課題、②地球規模で考える生命・環境・災害、③グローバル化と政治・経済・外交) の紹介、教員によるミニ講義などを行い、5 月に研究グループ形成とテーマの焦点化を行い本格的な研究活動に入った。①のオリパラ分野では、「オリパラを映像で PR する」、「東京五輪のデザインについて」、「誰にでもわかる表示 (ピクトグラム)」、「道具による公平性」といったテーマを掲げて研究活動を行っている。

### 3. 国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム、および国内クーベルタン・嘉納ユースフォーラムへの参加

2 年に一度開かれる「国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム (国際 YF)」は世界中から集まった高校生同士がスポーツやアート活動、座学や討議などを通してオリンピズムを学ぶ。2019 年にはフランスで開催される予定である。そこへ派遣する生徒は 2018 年 12 月 23 ~ 25 日に筑波大学で開かれた「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2018 (国内 YF)」で選考された。本校からも男子 4 名、女子 7 名が参加した。そのうち女子 2 名がフランスへ派遣されることになった。

### 4. 石井孝法氏 (了徳寺大学) による講演会

全日本柔道連盟強化委員を務める石井氏は、リオ五輪柔道競技でメダル獲得のために分析システム「GOJIRA」を開発した。今回は 2 学年の生徒約 240 名を対象に「情報戦略」というキーワードで、講演を行っていただいた。講演後も質問に行く生徒で列ができるほど、心に届くものが多かったと感じる。



### 1. 中学校2年生での総合学習「東京地域研究」におけるオリンピック関連の研究。

中学校2年生で総合学習の時間に東京の様々なことについて調査研究する学習を展開している。本年も中学校2年生123名を24班に分けてそれぞれテーマを決めて活動した。その中で、オリンピックに関する研究した班は5班であった。各班の研究の概略を紹介する。

#### ① 『東京オリンピックにおける科学技術』

この班はオリンピックで使用される科学技術に興味をもち4か所を訪問し研究した。1か所目の日の丸交通では無人走行タクシーについて調べた。2か所目の東京都立産業技術産業研究センターでは案内ロボットについて調べた。3か所目の東芝エネルギーシステムズでは水素エネルギーについて調べた。4か所のリネットジャパングループでは都市鉾山について調べた。

#### ② 『東京オリンピックの外国人対応』

この班は、東京オリンピックの外国人対応のため、多言語翻訳機能の開発とその技術、それを様々な生かすグローバルコミュニケーション計画、また流入する外国人のインバウンド消費について調べた。訪問箇所は総務省、観光庁、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会、情報通信研究機構



#### ③ 『東京オリンピックの成功に向けて』

この班は、オリンピック成功に向けて広報活動に目を向け、暑さ対策について外国人へどのように伝えるか。またオリンピック教育について調べた。

#### ④ 『東京五輪に向けた交通面での取り組み』

この班は、オリンピックでの交通混雑の緩和について調べた。都庁という公の立場と小田急電鉄という民間の立場の方たちに取材した。そこでは交通整備、混雑緩和、外国人観光客への対応、バリアフリー化について調べた。

#### ⑤ 『東京オリンピック・パラリンピックにおける外国人の対応』

この班は訪日外国人に向けての対策について調べた。外国語対策や宿泊地などの問題点を洗い出し、交通宇、宿泊地、行政そして企業同士の連携という4つの観点から研究を進めた。

### 2. 高校1年生での体育理論における冬季オリンピックの競技種目に着目した授業。

冬季オリンピックは1924年にフランスのシャモニーで第1回が開催された。それに先立ち1908年の夏季ロンドン大会の1種目としてフィギュアスケートが実施され第1回冬季オリンピックに至っている。その間、各競技連盟とりわけ北欧のジャンプ関連の団体の理解を取り付けることに苦労しながらの第1回冬季大会開催となった。そこから時代は下り2018年の平昌大会に引き継がれている。大会を重ねるごとに種目精選と追加は繰り返され平昌オリンピックでは15競技、102種目が実施された。

本授業では上記のように冬季オリンピックの歴史的変遷を画像や動画を交えながら紹介していった。特に動画では普段なかなか目にすることのないような種目、バイアスロン、リュージュ、スケルトン、クロスカントリーなどを紹介した。また1998年長野オリンピックでの男子団体ジャンプでの金メダルでのシーンを紹介した。生徒たちは「耳にしたことがあるがどんな種目なのかかか知ることができた。家でもテレビなどで視てみたい。」や「この日本の長野で、このような素晴らしい大会そして感動があったことに感動しました。これから冬の種目に興味を持ってみたいと思った。」などの感想がみられた。

### 3. TIAS による出張授業の展開

この企画は昨年度の3月29日(木)に開催された。年度末ということもあり昨年度の報告に載せられなかったので本報告に載せる。

本授業は筑波大学 TIAS 様の協力を得て上記の日程で開催された今回が2回目の企画である。講師の留学生・大学院生 11 名、引率教員 1 名、本校中学生 10 名での授業であった。13 時からイントロダクションの時間 20 分、13 時 30 分から実際の活動であった。この活動では最初アイスブレイクとして簡単なゲームを行った。留学生といっても本国では体育の教員であるので、ここでの中学生への指導やアイスブレイクの内容は手慣れたものであった。実際の活動では【Respect 尊敬】【Friendship 友情】【Excellence 卓越】をテーマに（最初はこのテーマは伏せて始まる。）3つのグループに分かれ約 20 分間の活動をそれぞれ行っていくというものだった。内容はどの活動も、ゲームの説明、実際のゲーム、そのゲームに込められたテーマを探り出すという流れであった。アクティビティでの生徒の動きは英語を交えながらの説明もよく理解して積極的に行った。以下、生徒の感想である（一部のみ）。

### 【Excellence 卓越】

・自分の目標の為に頑張っても達成できないこともあると思うが、それでもあきらめずにやれば達成できることもあるのではないかと思った。

### 【Friendship 友情】

- ・1人でやろうとせず、周りに積極的に協力を求め、分担をしてやれば、楽にできる。
- ・目標を達成するために仲間を尊重して何かを成し遂げる協調性が友情なのかな。

### 【Respect 尊敬】

- ・勝っても負けても馬鹿にしない。
- ・相手の事をみんな尊敬すれば、自然とルールも守り、みんなで楽しく生きていける。



## オリンピック・パラリンピック活動報告

筑波大学附属坂戸高等学校 藤原 亮治

本年度は台風・猛暑の影響で予定されていた活動が中止になるなどの影響を受けたが、代替となる活動を盛り込みながら、学校全体に波及するよう努めた。本校の今年度の活動をとおりである。

### ① 地元開催されるゴルフ競技の授業開発

地元霞ヶ関カントリークラブで開催されるゴルフ競技の多面的な魅力と課題への理解を促すとともに、技能向上のため授業開発を行った。

### ② 文化祭におけるスポーツイベント「坂リンピック」「WHO I AM 展示」の生徒企画・運営



### ③ 「WHO I AM」上映 実習生によるアダプテッドスポーツ・ニュースポーツ授業



### ④ アダプテッド・スポーツ開発と共生シンポジウムでのブース運営



### ⑤ オリンピック・パラリンピック講演会の開催



### ⑥ 卒業研究における「オリンピック・スポーツ普及」をテーマにする生徒の支援

上記取り組みを経験した生徒の論文テーマに「アダプテッド・スポーツ」「共生社会」「オリンピック」といったキーワードが含まれた探求・研究が多く見受けられた。

## オリンピック・パラリンピック教育報告

附属視覚特別支援学校 原田 清生

### 1. 本校におけるオリパラ教育の概要

附属視覚特別支援学校では、過去に多くのパラリンピアンを輩出しており、在校生がパラリンピックで活躍することもある。また、在校生の中に「競技団体の強化（育成）指定選手」として活動している生徒も複数いるため、パラリンピックや国際競技大会の日本代表が、比較的身近に存在しているという状況がある。しかし、児童・生徒間における認知・理解度には大きな隔りがある。

したがって、オリパラ教育を進めるにあたっては、基本的なことから専門的なことまで、対象に応じて適切に広範に取り扱う必要がある。

そうした中、まずは身近なパラリンピックについて知ることを目的としている。

本校の中・高等部で実施しているオリパラ教育の概要は以下の通りであり、主に総合的な学習や教科保健の授業内で実施している。

- (1) パラリンピックの歴史
- (2) パラリンピックの4つの価値（「勇気」「強い意志」「インスピレーション」「公平」）
- (3) 障がい者スポーツにおけるクラス分け
- (4) ドーピングと障がい者スポーツ
- (5) 国際競技者へのパスウェイ
- (6) 国内障がい者スポーツと国際パラスポーツの関係
- (7) 「観る」「する」「支える」の視点
- (8) 卒業生の活躍1（パラリンピアンとして）
- (9) 卒業生の活躍2（NFの運営に寄与する牽引者として）
- (10) その他

ア. 高等部総合的な学習の時間における取り組み

「視覚障害とオリンピック・パラリンピック」

対象；高等部普通科・音楽科第1学年

イ. 中学部・高等部教科保健における取り組み

### 2. パラスポーツの実践

(1) 授業における取り組み

ゴールボール、陸上競技、水泳、ブラインドサッカー

(2) クラブ活動における取り組み

ゴールボール、陸上競技、ボウリング

(3) NF による取り組み

ゴールボール、陸上競技、水泳、ブラインドサッカー、柔道、ボウリングなど

(4) 筑波大学附属学校オリパラ教育事業による取り組み

第21回全国視覚障がい駅伝大会に出場し、オリンピックやパラリンピアンとの交流を行った。チームは、盲学校の部で優勝した。また、大会参加にあたって、襷を着用してのランニングや受け渡しの練習など、日本発祥のEKIDEN文化について学ぶことが出来た。



金メダリストの堀越選手(本校出身)と



表彰式

### 3. その他

(1) 交流学习によるパラスポーツの紹介

附属中学・附属高校・附属駒場・学芸大附属高校との交流における、視覚障害スポーツの実践。

(2) 国際パラリンピック委員会公認教材である「I'm POSSIBLE」事業 (JPC、パラリンピックサポートセンター、スポーツ庁) への参画・協力。

## 附属聴覚特別支援学校におけるオリンピック教育の取り組み

附属聴覚特別支援学校 岡本 三郎

### 1. はじめに

本校でのオリンピック・パラリンピック教育は小学部から専攻科の各部、各科において児童生徒の実態に即して行われている。小学部では体育祭の演技と関連づけて「東京五輪音頭 -2020-」を継続的に取り上げている。中学部・高等部は保健体育の授業及び特別授業で、「車いすバスケットボール」「筑波大学女子バレーボール部員によるバレーボール特別授業」「ラート運動」を行った。専攻科はボランティア活動の一環として、「空飛ぶ車いす」支援事業を一般大学生と共同で行い中古の車いすを整備しアジアの人々に届ける活動を行っている。今年度は、中学部・高等部の取り組みを紹介する。

### 2. 車いすバスケットボール

本校は毎年数校の一般校と交流を行っている。しかし障害者スポーツ大会や黒姫高原共同生活等に参加する数名の生徒以外、他の障害種の学校との交流はほとんどない。そこで、相互理解教育の一環として昨年度は小学部でパラリンピック選手（種目：ポッチャ）の講演会やシッティングバレーボールの授業を行った。今回は、中学部、高等部の生徒（106名）を対象に車いすや車いすバスケットボールの事前学習①～④を行い、まとめとして車いすバスケットボール選手を招聘し講演及び体験会⑤を行った。

#### 【学習活動】

- ① 保健及び体育の授業の中で、体育科作成視覚教材「車いすを知ろう」を用いて、車いすの歴史や現在の一般用車いすと競技用車いすの違い等を学習した。
- ② 今回の事業で購入した車いす（自走用）2台を使い、実際に車いすを押したり（介助）、自走しながら校舎内を移動する等の体験活動を行った。
- ③ 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会作成「かんたん！車いすバスケットボールガイド」を参考資料として、競技の概要、競技者とクラス分け、特有のルール等を学習した。
- ④ 千葉県障害者スポーツ・レクリエーションセンターから借用した車いすバスケットボール用車いす10台を使用し、体育館内で車いすの乗り降りや移動等を体験した。
- ⑤ 平成30年12月17日（月）橋 貴裕さん（NO EXCUSE：東京都車椅子バスケットボール連盟所属、平成30年度 天皇杯 第46回日本車いすバスケットボール選手権大会準優勝）を招聘し講演及び車いすバスケットボールの体験会を開催した。



車いす体験の様子



車いすバスケットボールの試合

初めて車いすに触れた生徒がほとんどであったが、興味・関心が高く、事前学習から意欲的に取り組む様子が見られた。生徒が実際に車いすに乗ったり、押したりした後の感想では、「使いやすくて便利。」「軽くてびっくりした。」「軽いので高齢者でも使いやすいのではないか。」「見た目は不便そうだが、思ったより動かしやすい。」といったように、体験したことで車いすに対するイメージが大きく変わったことを示す内容が多くあった。一方、「視線が低くなり少し怖さを感じた。」「いつも見ている

景色と違い少し怖かった。」「地形がでこぼこだと不安定になるのではないか。」「コントロールするのが難しい。」「段差が怖い。」と言う意見や、更には「乗り心地は良かったが完全に安全ではないので、慎重に扱う必要があることが分かった。」「人に押しってもらうとき少し怖かった。」「押す側が難しい。」等、扱いの難しさを感じた意見も出てきた。

また、「車いすに乗る人の気持ちが実感できて良い経験になった。」「車いすに座る体験ができたので、押す側として気をつけることが分かった。」「車いすを押すときは、乗る人の気持ちになろうと思う。」と、他者への気づきや理解が深まり、他者への思いが自然な形で現れた感想もあり、この活動がとても有意義なものであり、今後の教育場面に生かすことができると感じた。

今回、橘貴裕さんのご講演では、敢えて事故での障害のことやその後の人生には深く触れず、車いすバスケットボールの実技を通して今の橘さんを見てもらうことに主眼を置いた。シュート練習や生徒による5対5、橘さん対生徒10人の試合を通して、生徒が肌で感じ取った感想を一部紹介する。

- ・「橘さんは事故で障害を負ったにも関わらず車いすバスケットに挑んでいます。立ち直ることができる心がすごい。自分も壁にぶつかったときに立ち直れるように挑戦できる何かを見つけたい。」
- ・「パラリンピックに更に興味を持った。障害を持っていてもスポーツを楽しむことはみんな同じということを実感した。」
- ・「車いすバスケットの楽しさ、面白さを知った。足の障害を持たない人たちも十分楽しめる。」
- ・「障害があっても工夫してスポーツをすれば楽しむことができることを改めて感じた。」
- ・「車いすであろうが、立ちバスケットであろうが関係なく、スポーツを通して楽しんだり、何か目標を持ってやるのが大事だと思った。」
- ・「車いすに乗っている人は、車いすが体の一部だと思った。」

### 3. 筑波大学女子バレーボール部3選手による特別授業

筑波大学女子バレーボール部監督である中西康己准教授のご理解ご協力もあり、平成31年1月21日(月)、全日本インカレの優勝メンバーである4年生3名が来校し、本校高等部の生徒が体育実技としてバレーボールの指導を受ける機会を設けることができた。指導内容は教育実習を経験した学生3名が自ら準備したものを基に検討の上実施した。本校体育科教員3名は主に手話通訳を行った。

オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイクを練習し最後にミニゲームを行う内容であるが、それぞれの技術練習の前に学生に見本としての動きをしてもらい、生徒にポイントとなる形や動きを確認させた。生徒達は大学生の技術の高さを直に感じる事ができたようである。

生徒の感想から、「オーバーハンドパスの時、手にボールが当たる瞬間に音がしない。」「リピート再生しているように安定している。」「動きが滑らか。」「安定していてフォームがきれい。」「パスが安定し、互いに信頼し合っている。」「努力しているから技術が凄い。」「パスが丁寧で打ちやすかった。」「相手を思う気持ちも大切だと感じた。」というように、しっかりと大学生の動きを見て感じていることが分かる。努力の結果や練習の成果と捉える生徒がいたり、チームとしての信頼や思いやりという言葉が出てきたことは、こちらの期待したこと以上の成果があったと感じた。また授業後のアンケート調査では、生徒(56名)の反応として以下の結果となった。

<p>①授業に参加して楽しかったですか？</p> <p>「とても楽しかった」</p> <p>「楽しかった」 11名 (19.6%)</p> <p>「普通」 2名 (3.5%)</p> <p>「楽しくなかった」 2名 (3.5%)</p>	<p>②パスのコツをつかむことができましたか？</p> <p>「つかむことができた」 22名 (39.2%)</p> <p>「ややつかむことができた」 17名 (30.4%)</p> <p>「普通」 12名 (21.4%)</p> <p>「あまりつかむことができなかった」 3名 (5.4%)</p> <p>「つかむことができなかった」 2名 (3.5%)</p>
<p>③スパイクのコツをつかむことができましたか？</p> <p>「つかむことができた」 17名 (30.4%)</p> <p>「ややつかむことができた」 14名 (25%)</p> <p>「普通」 18名 (32.1%)</p> <p>「あまりつかむことができなかった」 5名 (8.9%)</p> <p>「つかむことができなかった」 2名 (3.5%)</p>	

アンケートで「楽しかった」と答えた生徒の多さから、全体的に意欲的に取り組めたと思う。一方で、「楽しくなかった」と

いう2名はバスやスパイクで「コツをつかむことができなかった」と答えており。コミュニケーション面での工夫や教員の関わり方（手話通訳だけでなく、個々の指導を手伝う等）をもう少し工夫すれば良かったと反省している。

筑波大学附属聴覚特別支援学校  
平成30年度オリンピック教育活動事業

オリピック・パラリンピック教育  
体育実技「バレーボール」

附属聴覚特別支援学校体育科  
指導者：岡本 三部 荒川 郁朗 香瓜 道代

1. 目標
  - ・オリパラ教育について関心をもち、学習活動に対して意欲的に取り組むことができる。
  - ・バス・スパイクの基本的な技能を身に付け、練習や試合ができる。
  - ・ルールやマナーを守り、安全に留意して取り組むとともに、仲間と協力して練習ができるようにする。
  - ・動きのポイントを理解し、自分の課題を意識して練習に取り組むことができる。
2. 対象
  - ・高等部1年26名
  - ・高等部2年22名
  - ・高等部3年14名
3. 計画（高1全6時間、高2,3全4時間計画）
  - ・オリンピックムーブメントの理解、バス練習（高1：3時間、高2,3：1時間）
  - ・スパイク練習（2時間）本時(2時間目)
  - ・オリピック教育（バレーボール）のまとめ（1時間）
4. 日時
  - 平成31年1月21日(月) 9:40~10:30（高等部1年生）
  - 10:40~11:30（高等部3年生）
  - 11:40~12:30（高等部2年生）

5. 本時の展開：

時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	選手（講師）紹介 本時の内容確認	・指導者を知る 筑波大学女子バレーボール部 ・4年丸尾遥香選手 ・4年田中みちる選手 ・4年湯浅穂子選手 ・本時の学習内容を知る	・名前を書いた短冊黒板を事前に用意する。  ・本時の流れ、試合のグループを板書しておく。
		①アップ ②バス練習 ③踏み込み練習 ④スパイク練習 ⑤ミニゲーム	

	アップ		
展開	①バス練習	・体育館を5周走る ・準備体操をする ・見本を見て、正しいバスのフォームを確認する。 【オーバーハンドパス】 ○顔の前でボールを取る ○膝を使う ○左右にボールがきたら、必ず正面に移動してボールの下に入る 【アンダーハンドパス】 ○肘を伸ばして腕を組む ○手首から肘よりの部分に当てる ○膝を使う	・しっかり身体を温めさせる。 ・講師の見本に注目させる。 ・講師の説明を理解し、ポイントを意識して練習しているか様子を見る。
	②踏み込み練習	・見本を見て、正しいスパイクの踏み込み動作を知る。 【右きき】 ○右足を出した状態から始める ○2歩目を大きく踏み出す ○3歩目と同時に腕を振り上げる	・講師の見本に注目させる。 ・講師の説明を理解し、ポイントを意識して練習しているか様子を見る。 ・カウントを教え、リズムが合うようにする。
	③スパイク練習	・講師がネット際で投げ上げたボールをスパイクする。（3ヶ所） ・見本を見て、助走のタイミングやボールを叩く位置を確認する。 ・自分が打ったボールを拾う。	・講師の見本に注目させる。 ・2歩目を意識するよう声をかける。 ・ボールを踏んで怪しいよう、ボール拾いをしっかりさせる。
	④ミニゲーム	・3グループに分かれる ・各グループに講師が入り、セッターをする ・1試合5分 ・サーブは、下から投げ入れる ・試合をしないグループが審判をする	・試合順・審判を確認する。 ・積極的にスパイクを打つよう声をかける。
まとめ	集合・整列 本時のまとめ 挨拶	・1列横隊に整列（リーダー指示） ・練習・ゲームの講評	・次回は、自分たちでセッターをやり、スパイクを試合の中で使えるようにする。

6. 評価

- ・オリパラ教育について関心をもち、学習活動に対して意欲的に取り組むことができたか。
- ・バス・スパイクの基本的な技能を身に付け、練習や試合をすることができたか。
- ・ルールやマナーを守り、安全に留意して取り組むとともに、仲間と協力して練習をすることができたか。
- ・動きのポイントを理解し、自分の課題を意識して練習に取り組むことができる。

学生が考えた授業の流れに実際の活動を加えて作成した指導案



大学生にスパイクのポイントを教わり、見本を見て、皆で練習しました

今回指導してくれた大学生3名は、聴覚に障害がある生徒と関わるのは初めてだったようである。「教育実習では経験できなかった体験ができて良かった。」と話してくれた。教員志望の学生は、「初めは特別支援学校に赴任することも多いので、赴任した場合この経験を生かしたい。」とも言っていた。今回このように大学生と交流することは、生徒の意識を高めるだけでなく大学生の障害者理解や共生社会など、互いに支え合って生きようとする態度を養うことができるものであると感じた。

4. ラート運動（本校のラート運動の取り組みは4年目となる）

ラート運動は、筋力でラートを制御するというよりも、身体の平衡機能や位置感覚、重力などを利用してラートを回転させ、空中回転や宇宙遊泳のような感覚を体験するものである。

平成31年2月5日（火）、筑波技術大学の天野和彦准教授を講師に招き、中学部生を対象に「ラート運動」に取り組んだ。両足をラートに固定するベルト（ピンディング）は、通常のベルトではなくかかとつきの補助ベルトを使用した。中学部1年



生は初めての活動あるが、2時間の授業の中で側転、後転、前転ができるようになった。中学部2、3年生は2回目、3回目になる。全員が意欲的に参加し新しい技に挑戦することができた。なお、高等部生については本校体育科教員が事前研修し、体育授業の中でラート運動を実践している。この4年間で中学部・高等部生合わせて約190名がラート運動を体験することができた。めまい等の理由で最後までできなかった生徒は3名である。この3名もグループ内で補助等を行うなど、積極的に参加した。

今年は今まで怖いことが理由でできなかった1名（高3生）が自ら進んで取り組み、側転、後転、前転全てに挑戦し技を成功することができた瞬間を目の当たりにした。この生徒を始め、他の生徒達の授業後の「楽しかった。」という声の多さに改めて、勇気を出して回転した喜びと達成感は自信となり、初めての運動に挑戦し克服する体験を通してスポーツに親しむ態度、意欲的に取り組む姿勢を育むことができたと感じた。また、お互いにアドバイス等の声を掛け合いながら技を習得する過程は、協力・共同する力を伸ばし、良い人間関係を築くことができると期待している。



初めてのラート



後転に取り組んでいます



新しい技に挑戦

## 大塚オリパラデー 2018 & マスコット投票通信

附属大塚特別支援学校 初村 多津子

### 1. 大塚オリパラデー

本校では、2013年以降、知的障害教育における「オリンピック・パラリンピック教育（以下、オリパラ教育）」の先導的な取組として、様々な実践を行ってきた。2016年度から「オリパラ教育」を学校が総力を挙げて取り組む「重点プロジェクト」として位置付けている。

具体的には、本校では、国際オリンピック委員会（IOC）が定める6月23日のオリンピックデーにちなんで、オリパラ教育の一環として「大塚オリパラデー」を開催している。本校は、オリパラ教育の目標として、①生涯を通じたスポーツ、②多様な価値観、③他者への敬意の3つを掲げ、関連した活動を年間4回実施している。実施に当たっては、合同朝会の時間を活用し実施している。合同朝会は、幼稚部、小学部、中学部、高等部の全ての幼児児童生徒が合同で行う集会活動である。オリパラデーの活動においても、単に活動に参加するだけでなく、「集団への参加と運営」という視点から、会の進行や運営を上級学部の生徒が担うなど、幼児児童生徒それぞれの役割に応じて活動できるように実施し、学部を超えた交流の場として定着してきている（写真-1）。

今年度は、日本の文化的な面にも視野を広げられるように「みんなで踊ろうNIPPON！」と題して、鳴子の楽器を使用し、ロック調にアレンジされたソーラン節の踊り体験を行った（写真-2）。また、「なるほど・ザ・ワールドサッカー」とし、開催中であったサッカーワールドカップに関連したクイズ（「ミライの体育館™」を活用）やサッカーシュート体験を実施した（写真-3）。ダンスやクイズは、幼児児童生徒にとって興味・関心が高く、大変な盛り上がりを見せた。さらに、保健給食部とも連携し、大塚オリパラデー当日にオリパラ給食を実施。サッカーワールドカップで日本チームが予選の初戦で対戦するポーランドの料理を味わうことができた。

さらに、2学期の「オリパラデー」では、「この人だあれ？」と題して、3人の教員に特技とするスポーツを紹介していただいた。そのなかで、リオデジャネイロのパラリンピック大会の水泳日本代表コーチの経験のある教員に、実際の動画でパラリンピックの様子を紹介してもらい、幼児児童生徒に、頑張ることで色々な可能性が広がること、チャレンジすることの大切さを伝えることができた（写真-4）。



写真-1 幼児児童生徒の学部間の交流



写真-2 「みんなで踊ろうNIPPON！」



写真-3 みんなでサッカーシュート体験



写真-4 パラリンピック大会の様子の紹介

## 2. マスコット投票通信

昨年度参加した2020東京大会のマスコット投票の取組は、東京2020教育プログラム特設サイトの「マスコット通信」に紹介されている。2学期に開催した「オリパラデー」では、決定したマスコットの紹介動画を全幼児児童生徒で鑑賞した(写真-6)。

児童自身が、東京2020大会に関与できる取組として実施したことで、マスコットの存在を身近に感じ、オリパラ教育に対するさらなる関心の高まりが見られた。

昨年度から、本校ホームページに「オリパラ教育」のページを設け、本校の取組の発信を開始した。今後は、本校における、子どもの実態に応じた豊かな取り組みが、日本全国、そして世界に広がるように、今後発信にも力を入れていきたい。



写真-5 マスコット投票感謝状贈呈



写真-6 東京2020大会マスコット紹介

# マスコット投票通信

Vol. ● 筑波大学附属大塚特別支援学校 小学部

### 学校紹介

筑波大学附属特別支援学校は、昭和35年に発足した伝統のある学校で知的障害のある幼児児童生徒が学ぶ学校です。幼稚園、小学部、中学部、高等部の四つの部があり、小学部会3クラス(児童数23名)で、1月29日(月)にマスコット投票を行いました。

本校は、オリンピック・パラリンピック教育にも力を注ぎ、年間を通じて、様々な学習に取り組みしています。「大塚オリパラデー」と位置づけて、幼稚園から高等部まで会員が満席な合同集会の時間を、左近同士協力してゲームをしたり、様々な音楽に合わせてダンスをしたり、オリンピックの方とのスポーツ交流をしたりします。最近では、平昌オリンピックにも関心を持って韓国料理のメニューが給食で提供されました。

### 投票の様子

講師紹介動画をみんな真剣に見ていました！

一人一人、決めた順番にボールを入れて投票しました。投票の順番、児童によって票の比が積極的に分かちやすい教材・教具です。

### 投票の流れ

**投票前** 平昌2018冬オリンピック/パラリンピックに関して、韓国出身の講師者にゲストティーチャーとして訪れていたとき、韓国の文化(韓流の音楽、食べ物、お茶、お金、遊び)などについて学びました。

**導入5分** 東京2020オリンピック/パラリンピックのマスコットは、小学生が投票して決めることができること、自分たちも投票という形で東京2020オリンピック/パラリンピックに参加できることを児童に伝えました。

**展開10分** 本校には、音声支援によるコミュニケーションが難しい児童もいますので、どの児童も参加できるように、東京2020大会マスコットの候補紹介動画をみて、一人一人が投票したいマスコット候補を決め、投票しました。クラスのなかで一番票の多かったマスコット候補をクラスの投票とすることにしました。

**まとめ5分** 各クラスごとの投票結果を発表すると児童からは歓声が上がりました。投票の結果は、2月末に分かることを児童に伝え、オリンピック/パラリンピック学習の振り返りを行いました。

### 児童からの感想

- 投票は楽しかった。
- 2月の結果が楽しみ。
- 自分が投票したマスコットになったらいいね。

### 先生方からの感想

- 本校が、これまで毎年オリンピック・パラリンピックにも関心を持って取り組んできたことで、児童自身もオリンピック・パラリンピックに関心をもち、発言している姿が増えました。
- 自分の好きなと思うものを自己選択することで、どの児童も活動に参加することができました。

### マスコット投票時に活用した教材等

- 東京2020組織委員会から提供されたマスコット投票に関するイラスト教材やダウンロード可能な動画
- 造形紙の袋(教材・袋員の考案者：根本文雄本校副校長)

東京2020教育プログラム特設サイト「マスコット投票通信」より

## 附属桐が丘特別支援学校におけるオリンピック教育の取り組み

附属桐が丘特別支援学校 畠山 綾香

当校のオリンピック教育は、各教科、道徳や総合的な学習の時間、特別活動において、在籍する児童生徒の実態に応じて行われている。今年度は、中学部3年生の総合的な学習の時間の取り組みを紹介する。

今年度中学部3年生の学年は、中学部の3年間、「TOKYO2020 オリンピック・パラリンピックに向けて」というテーマで総合的な学習の時間に取り組んできた。なかでも、TOKYO2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、「施設設備や道路状況（1年次）」、「公共交通機関（2年次）」がどのように整備されるのか、そして3年次には、TOKYO2020 オリンピック・パラリンピックには「どのような職業の人がどのようにかかわっているのか」という切り口で探求活動を行ってきた。

探求活動を行うにあたり、生徒がテーマについて身近に感じることができるよう、校外に出て生徒が自分の目で見たり、感じたりすることを重視し、年間の探求活動の計画を立てるようにしている。今年度は、まずTOKYO2020 オリンピック・パラリンピックには「どのような職業の人がかかわっているのか」について、知っていることを出し合い、視野を広げる活動を行った後、「選手」「審判」「ボランティア」「デザイン」の4つの視点でグループを作成し、「どのようにかかわっているのか」についてグループ別に課題を設定して情報収集を行っていった。なかでも興味関心が高く身近であったのが「選手」であったため、オリンピックを目指している選手とパラリンピックを目指している選手をそれぞれお招きし、学年全体でお話をうかがうことができたことで、これまでの探求活動をさらに深めることができた。以下に選手をお招きした際の様子を紹介する。

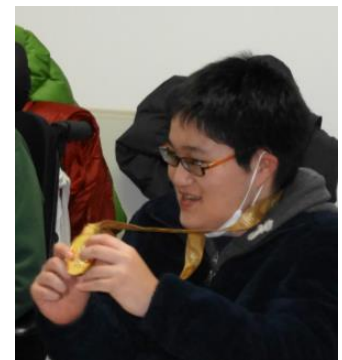
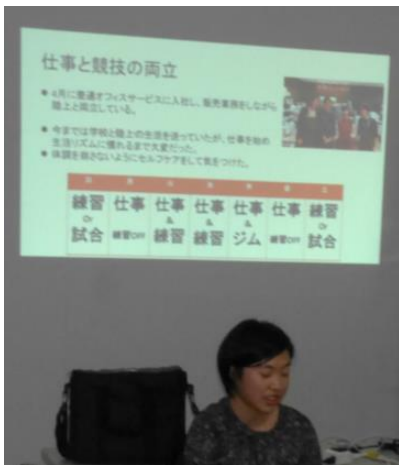
当校は、今年度KWN（Kid Witness News）新規参加校となり、TOKYO2020 オリンピック・パラリンピックに向けた映像作品づくりを進めていくプログラム（特別ワークショップ）を行っている Sharing The Dream 2020 に参加した。このプログラムでは、IOC から認められ、過去ユースオリンピックでの活動経験があり、IOC からのサポート資金を元に「健康や運動と生活」「多様性」「持続可能性」「平和と進展」のいずれかのテーマに沿ったエンゲージメント活動を行っているヤングチェンジメーカーが来校し、特別ワークショップのほか、1校1国応援としてヤングチェンジメーカーの母国への応援メッセージの撮影や編集が行われる。来校したヤングチェンジメーカーのラニア選手はシンガポール共和国のフェンシングの選手であり、車いすフェンシングを導入し、スポーツを定期的を実施する障害者を増やし、より大きな夢に向けて力を与え、地域社会との交流を促進することをテーマとして活動されている。今回はこの活動のテーマに関する講演に加えて、生徒が総合的な学習の時間に「選手」という視点で探求している課題（選手の日常生活、トレーニング等）に関する質問にも答えていただき、貴重な情報を得ることができた。また、1校1国応援メッセージの撮影では、生徒にとって身近なパラリンピック競技であるボッチャを取り上げ、応援メッセージの撮影を行った。ラニア選手にもボッチャの体験をしていただき、スポーツを通じて交流を深めることができた。また、IOC Youth Summit に代表生徒が参加し、トーマス・バッハ会長の



前で、英語でスピーチを行う機会をいただいた。

代表生徒の感想から、「パラリンピック競技を世界中に浸透させていきたい」、「TOKYO2020 オリンピック・パラリンピックでたくさんの外国の方とお話したい」という想いが強くなったように感じられた。

また、陸上競技でパラリンピック出場を目指す卒業生に講演をしていただき、働きながら競技に取り組む大変さや、それでも頑張れる理由、競技環境など、生徒からのさまざまな疑問に答えていただいた。動画で国際大会の様子を見て感じたり、国際大会で獲得したメダルを触らせてもらったりする体験を通じて、「TOKYO2020 オリンピック・パラリンピックにどのようにかかわっていききたいか」を生徒一人一人が考える契機となった。



## 附属久里浜特別支援学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の取組

附属久里浜特別支援学校 竹崎 信也

### 1. はじめに

本校は、幼稚部と小学部の知的障害を伴う自閉症の子供たちが在籍する学校である。以下のことをねらって、オリンピック・パラリンピック教育に取り組んでいる。

- ①実際の体験を通して、オリンピック・パラリンピック競技の興味・関心を高める。
- ②運動することを通して、教師や友達と一緒に活動を楽しんだり、競争したりすることができるようになる。
- ③仲間意識やチームの一員としての自覚を育て、教師や友達と協力したり、励ましたりする態度を養う。
- ④自分で目標を決めたり、体の動かし方を考えたりして、目標に向かって努力する力を育てる。

そのために、子供たちが安心でき、安全に運動できるように環境を整えている。また、例えば、順位が理解できるように、メダルやトロフィー、等賞旗を用いたりするなど、教材・教具も工夫している。

### 2. 具体的な取組

#### (1) カヌー体験

本校小学部5年生は、毎年6月下旬に、三浦YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジという場所で校外宿泊学習を実施する。この施設は海に面しており、磯遊びやカヌーの乗船体験、貝殻を使った工作など、地域の特色を生かした活動が多くできる。本校も同様に海に面している。5年生の児童は、外で体を動かすことやプール学習が好きである。そこで、教師や友達と一緒に海で行う活動を体験したり、楽しんだりすることを目的として、三浦YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジでのカヌー体験を行うことにした。

校外宿泊学習に向けた事前の学習では、学校のプールでカヌーに乗る練習をした。ライフジャケットを着たり、プールサイドからカヌーに乗り込んだりなど、全てが初めての経験で、児童は不安と期待が入り混じったような表情で活動していた。教師や友達と二人一組になり、「せーの。」「みーぎ、ひだり…。」などの掛け声に合わせてパドルを動かした。児童は、カヌーが進むことや揺れることを楽しんだり、パドルを操作することでカヌーが進むことに気付いたりしていた。

校外宿泊学習の当日は、悪天候のため、カヌー体験ができなかった。カヌー体験を楽しみにしていた児童がほとんどで、とても残念がっていた。そこで、10月上旬に再びカヌー体験の計画を立て、三浦YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジに行った。海上でカヌーに乗り、プールで乗ったときよりも揺れることに驚いたり、海面に映る光を見つめたり、教師の掛け声に合わせてパドルを動かしたりなど、児童それぞれがカヌー体験を楽しんでいた。翌日、写真を教室に掲示していると、強く思い出に残ったようで、笑顔で写真を見つめたり、写真を見ながら思い出話をしたりしていた。

今後は、児童にとって強く印象に残ったカヌー体験が、オリンピックやパラリンピックの種目であることを知ったり、オリンピック、パラリンピックに興味をもったりするような学習を行い、学びを深めていきたい。



本校のプールで練習



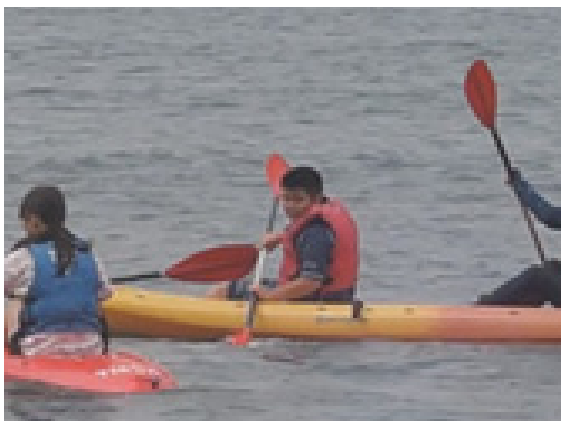
海でカヌー体験  
(前は5年生の子供たち、後ろは教師)

(教諭：内田佑介)

## (2) 三浦共同生活における活動

8月28日(火)～29日(水)に、三浦YMCAグローバル・エコ・ビレッジで行われた「三浦海岸共同生活」に6年生6人が参加し、海でのいろいろな活動を体験した。8月21日(火)に本校で行った事前交流会で、学校のプールで他の附属学校の生徒とペアになって練習をし、当日もペアになり、シーカヤックを操作することができた。海の上で風を感じたり、波に揺れたりして楽しんだ。

子供たちが、自然の中で心地よさを感じたり、人と一緒に楽しさを共有したりする経験が、特に、屋外の様々なスポーツに、主体的に取り組もうとする意欲や態度の基盤になると考えている。また、安全に活動するために、インストラクターの指示を守ったり、ライフジャケットを装着したり、注意して用具を操作したりするなど、安全にスポーツに取り組む態度を養うよい機会となった。



## (3) 水泳大会

本校小学部の体育科の授業では、6月下旬～9月中旬に掛けて校内に設置してあるプールを使用して学習に取り組んでいる。水を怖がる児童は、まずは、水に慣れることから始め、水に浮いたり、潜ったりすることを楽しめるようにしている。また、ビート板等の浮き具を使ったり、クロールで泳いだりするなど、児童の実態は様々である。

今年度は、プール学習でできるようになったことを発表することを目的として、9月に水泳大会を実施した。小学部1,2年生、3,4年生、5,6年生のそれぞれ2学年ずつが合同で行い、実態に応じた学習内容を設定した。

1,2年生の水泳大会では、教師が水面の位置で持ったフープを児童がくぐったり、教師や友達と一緒に水面に浮いたボールを集めたりすることに取り組んだ。ボール集めでは、ボールを入れる籠をワニの顔にすることで、児童は、ワニの口に入れたいという思いで楽しみながら活動していた。



3,4年生と5,6年生の水泳大会では、教師や友達と一緒に水の中で「エビカニクス」の曲に合わせて踊ったり、プールかけっこ(競走)をしたりした。プールかけっこでは、3～4名の児童がそれぞれコースに分かれて、水の中を走ったり、ビート板を使ったり、クロールで泳いだりするなど、ゴールを目指して最後まで進むことができた。ゴールした順番に教師が等賞旗を立て、順位が分かるようにした。友達に負けないように速く進む児童がいた。



水泳大会の後日は、表彰式を行った。1,2年生は、これまでの学習で児童が頑張ったことを映像で振り返り、3,4年生、5,6年生は、プールかけっこの順位を発表した。児童一人一人にメダルや賞状が渡され、今年度のプール学習を締めくくった。

(教諭：松館敬太)

#### (4) 運動会

今年度は、10月20日（土）に運動会が実施された。天気にも恵まれ、子供たちは家族や地域の人々、関係者の方々に見守られながら、日頃の学習の成果を存分に発揮することができた。

今年度は、各組3学年ずつ、赤組、白組、青組の三つに分かれて、自分のチームを応援したり、一緒にダンスを踊ったりした。団体種目の「玉入れ」と「小学部かけっこ」では、順位に点数を付けて、子供たちが優勝を目指して競い合えるようにした。

開会式では、5,6年生が演奏する行進曲「勇気りんりん」に合わせて全校の子供たちが入場した。また、幼稚部のうさぎ組の子供たちがみんなの前に出て、「くりはま体操」をし、みんなもそれに合わせて身体を動かした。さらに、各組の応援団長が「選手宣誓」を行い運動会が開幕した。

今年度の運動会には、5年生が図画工作の授業で作った入退場門が設置された。子供たちは種目ごとに門をくぐって入場したり、種目が終わると門に向かって退場したりするなど、児童にとっては、種目の始まりと終わりが分かりやすかったと思う。5年生が作ったカラフルな入退場門は、一つ一つの種目を引き立ててくれた。



閉会式では、1位のチームに優勝トロフィーと金メダルが授与され、2位と3位のチームにもそれぞれ、銀メダル、銅メダルが授与された。優勝して喜んだり、負けて悔しがったりするなど、子供たちはとても生き生きとした表情をしていた。



2017（平成 29）年度スポーツ庁オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業茨城県アンケート調査報告

筑波大学体育系、CORE 事務局 宮崎 明世

1. はじめに

スポーツ庁が 2015（平成 27）年度に「オリンピック・パラリンピック教育調査研究事業」として始めた委託事業は、2016（平成 28）年度から「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」として発展し、筑波大学、早稲田大学、日本体育大学が拠点大学となって進められている。年々事業に参加する自治体の数が増え、2018（平成 30）年度には 35 自治体が参加した。年間の活動の概要として、各拠点大学は、年度当初の全国セミナーにおいて事業説明や前年度までの事例を紹介し、地域セミナーを通して各自治体に応じた活動の支援を行った。それを受けて各地域の推進校は、それぞれの学校に合った活動を行って、年度末の地域セミナーで成果や課題を共有したり話し合ったりして、それらを全国セミナーの場で共有した。2017（平成 29）年度の本事業における活動のテーマは、Ⅰ. スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び、Ⅱ. マナーやおもてなしの心を備えたボランティアの育成、Ⅲ. スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築、Ⅳ. 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成、Ⅴ. スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成、であった。推進校はこれらのテーマから選択して、活動を行った。

このように本事業は展開されてきたが、オリンピック・パラリンピックの開催を前に事業の評価を行って、その成果や課題を明らかにする必要があると考えられる。事業の評価として、各自治体のコーディネーターを対象とした組織・事業の評価、実際にプログラムを計画し、実行している教師を対象とした評価、教育を受けている児童生徒を対象とした評価が考えられる。これまで年度末に提出される報告書によって、教師の立場から見た評価を知ることはできたが、教育を受けている児童生徒を対象として、直接教育の成果を明らかにしようとするような調査は行われていなかった。そこで本調査では、茨城県の推進校の児童生徒を対象として、2017（平成 29）年度末に質問紙調査を行い、今後の全国の推進校を対象とした評価に役立てることとした。調査の目的は、オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業に参加した児童・生徒のオリンピック・パラリンピックに関する興味・関心や、事業の活動テーマについての興味の実態を明らかにすることであった。

2. 方法

本調査の対象は、2017（平成 29）年度の茨城県の推進校、小学校 21 校、中学校 21 校、高等学校 4 校、特別支援学校 1 校の合計 47 校であった。推進校に質問紙を配布して、郵送により回答を提出させた。有効回答数は、小学生 1,467 名（男子 740 名、女子 727 名）、中学生 2,994 名（男子 1,522 名、女子 1,472 名）、高校生 761 名（男子 387 名、女子 374 名）、合計 5,222 名（男子 2,649 名、女子 2,573 名）であった。内訳を表 1 に示した。

質問項目は、問 1「オリンピック・パラリンピックについて」として、「ア. オリンピックに興味がありますか」、「イ. パラリンピックに興味がありますか」、「ウ. 将来、オリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか」、「エ. 将来、パラリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか」、「オ. これから行われる、オリンピック・パラリンピックイベントに参加したいと思いますか」の 5 項目、問 2「活動テーマについて」として、「ア. 社会や人のために役に立つことをしたいと思いますか」、「イ. お年寄りや障害のある方と交流したいと思いますか」、「ウ. 運動やスポーツをすること、みることに興味がありますか」、「エ. 日本の伝統・文化について興味がありますか」、「オ. 外国の人々の暮らしや習慣などを調べてみたいと思いますか」の 5 項目を設定した。解答は「1. 関心が低いー 4. 関心が高い」、の 4 件法で回答させた。調査期間は、各学校の活動が終了した、平成 30 年 2 月～ 3 月であった。

データの処理として、10 項目すべてに回答した者を対象とし、回答に 1 つでも欠損があるものは分析対象から除外した。特別支援学校の生徒は数が少ないため、校種として独立して扱わず、該当する校種の中に組み込んだ。学校種ごとに学年と性別を要因として、二要因分散分析を行った。5%を有意水準として、有意差のある項目を検討した。分析には SPSS. ver.25 を使用した。

表 1. 有効回答数（学年・男女別）

	学年	男	女	合計
小学校	4年	138	125	263
	5年	323	323	646
	6年	279	279	558
	小計	740	727	1,467
中学校	1年	772	686	1,458
	2年	520	552	1,072
	3年	230	234	464
	小計	1,522	1,472	2,994
高等学校	1年	252	268	520
	2年	135	106	241
	小計	387	374	761
合計		2,649	2,573	5,222

### 3. 結果

#### (1) 小学校の興味関心の傾向と学年・性別による比較

小学校4年生、5年生、6年生の学年と男女の2要因について統計処理を行った。結果を表1、図1、図2に示した。

学年間の比較では、問1-イ「パラリンピックへの興味」は4年生よりも5年生の得点が有意に低く ( $F=0.211, p<.05$ )、問1-オ「イベントへの参加意欲」は5年生よりも6年生の得点が有意に低く ( $F=0.687, p<.05$ )、問2-ウ「運動やスポーツへの興味」では他の学年よりも6年生の得点が有意に低かった ( $F=0.259, p<.01$ )。

男女別では、問1-エ「応援などでの参加意欲」 ( $F=0.439, p<.05$ )、問2-ア「役に立つことをしたいと思うか」 ( $F=0.627, p<.01$ )、イ「交流したいと思うか」 ( $F=2.213, p<.001$ )、オ「イベントへの参加意欲」 ( $F=1.417, p<.001$ ) では男子よりも女子の得点が有意に高かったが、問2-ウ「運動やスポーツを見ることへの興味」のみ男子の方が女子よりも有意に高い得点であった ( $F=0.259, p<.001$ )。

表2：小学生の問1、問2の回答の平均点と有意差（4点満点）

学年	性別	n		問1					問2				
				ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ
4年	男	138	mean	3.2	2.7	2.7	2.6	2.8	3.2	2.9	3.5	3.0	2.7
			SD	0.91	0.99	1.02	1.00	0.98	0.80	0.90	0.72	0.92	0.93
	女	125	mean	3.2	2.7	2.9	2.7	2.8	3.4	3.0	3.2	3.0	3.0
			SD	0.80	0.97	0.87	0.91	0.90	0.71	0.85	0.79	0.86	0.84
5年	男	323	mean	3.2	2.9	2.8	2.7	2.9	3.3	2.9	3.5	3.1	3.0
			SD	0.89	0.92	0.95	0.91	0.95	0.66	0.80	0.70	0.84	0.95
	女	323	mean	3.2	2.9	2.9	2.8	2.9	3.4	3.0	3.3	3.0	3.1
			SD	0.82	0.88	0.84	0.85	0.87	0.65	0.79	0.82	0.85	0.87
6年	男	279	mean	3.2	2.7	2.8	2.6	2.8	3.3	2.8	3.4	3.0	2.9
			SD	0.87	0.87	0.90	0.90	0.95	0.67	0.82	0.81	0.80	0.89
	女	279	mean	3.1	2.8	2.8	2.7	2.7	3.4	3.1	3.1	3.1	3.1
			SD	0.84	0.86	0.80	0.78	0.81	0.64	0.72	0.95	0.77	0.87
F値				1.472	0.211	0.395	0.439	0.687	0.627	2.213	0.259	1.948	1.417
多重比較				n.s	4年生<5年生*	n.s	男子<女子*	6年生<5年生*	男子<女子**	男子<女子***	女子<男子***	n.s	男子<女子***
													6年生<4年生**
													6年生<5年生**
													4年生<5年生*

\*  $p<.05$ , \*\*  $p<.01$ , \*\*\*  $p<.001$

(表中の記号の説明：mean=平均、SD=標準偏差、n. s. =有意差なし)

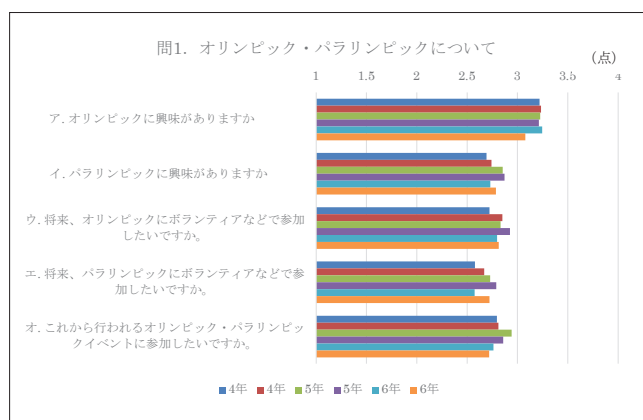


図1：小学校問1の平均点（4点満点）

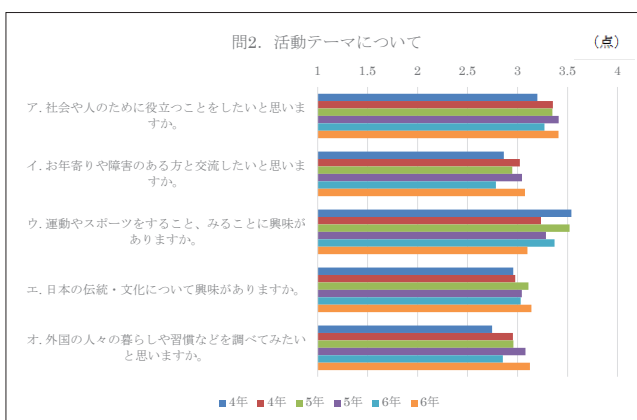


図2：小学校問2の平均点（4点満点）

(2) 中学生の興味関心の傾向と学年・性別による比較

中学校1年生、2年生、3年生の学年と男女の2要因について統計処理を行った。結果を表2、図3、図4に示した。

学年の比較では問2-ア「役に立つことをしたいと思うか」(F=0.126, p<.001)、ウ「運動やスポーツへの興味」(F=0.413, p<.001)は2年生よりも1年生の方が、得点が有意に高かった。

男女別の比較では、問1-イ「パラリンピックへの興味」(F=2.032, p<.001)、ウ「ボランティアなどでのオリンピックへの参加意欲」(F=2.137, p<.005)、エ「ボランティアなどでのパラリンピックへの参加意欲」(F=0.471, p<.001)、問2-ア「役に立つことをしたいと思うか」(F=0.126, p<.001)、イ「交流意欲」(F=2.408, p<.001)、エ「伝統・文化への興味」(F=2.043, p<.001)、オ「外国への興味」(F=0.176, p<.001)と多くの項目で、男子よりも女子の得点が高かった。問2-ウ「運動・スポーツへの興味」(F=0.413, p<.001)のみが女子よりも男子の得点が有意に高く、これは小学校と同様の結果であった。

表3：中学生の問1、問2の回答の平均点と有意差

学年	性別	n		問1					問2				
				ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ
1年	男	772	mean	3.0	2.5	2.5	2.4	2.5	3.1	2.7	3.3	2.9	2.6
			SD	0.88	0.86	0.88	0.85	0.89	0.70	0.79	0.81	0.83	0.88
	女	686	mean	3.0	2.6	2.6	2.5	2.4	3.2	2.8	3.1	2.9	2.9
			SD	0.73	0.74	0.81	0.80	0.81	0.64	0.74	0.86	0.77	0.82
2年	男	520	mean	3.0	2.4	2.5	2.4	2.4	3.1	2.5	3.3	2.8	2.5
			SD	0.89	0.88	0.94	0.91	0.94	0.70	0.78	0.82	0.82	0.90
	女	552	mean	3.0	2.6	2.7	2.6	2.5	3.2	2.8	3.1	2.9	2.8
			SD	0.79	0.77	0.82	0.79	0.82	0.64	0.75	0.84	0.77	0.85
3年	男	230	mean	2.93	2.50	2.52	2.39	2.36	3.06	2.60	3.29	2.78	2.64
			SD	0.93	0.88	0.91	0.89	0.96	0.78	0.86	0.88	0.91	0.91
	女	234	mean	3.00	2.66	2.73	2.62	2.53	3.21	2.86	3.13	2.94	2.91
			SD	0.80	0.74	0.83	0.78	0.87	0.65	0.70	0.83	0.73	0.85
F値				0.646	2.032	2.137	0.471	2.431	0.126	2.408	0.413	2.043	0.176
多重比較				n.s	男子<女子***	男子<女子***	男子<女子***	n.s	男子<女子***	男子<女子***	女子<男子***	男子<女子***	男子<女子***

\* p<.05, \*\* p<.01, \*\*\* p<.001

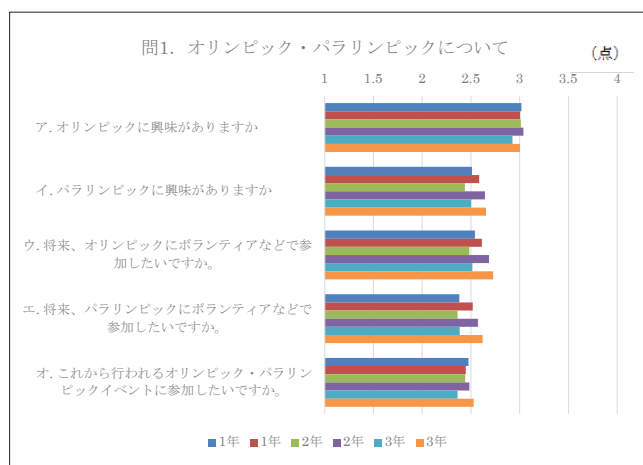


図3：中学生問1の平均点 (4点満点)

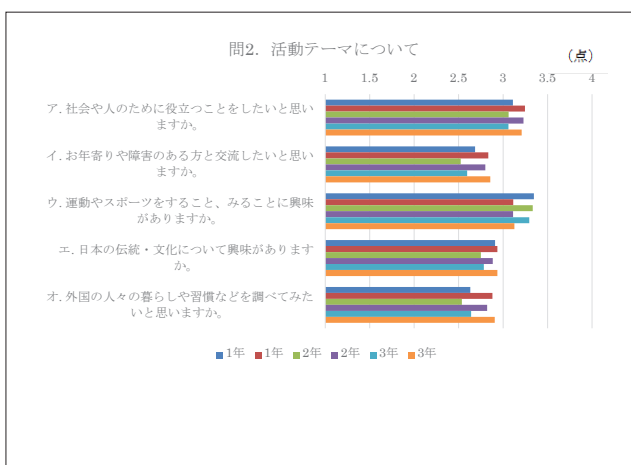


図4：中学生問2の平均点 (4点満点)

(3) 高校生の興味関心の傾向と学年、性別による比較 (表 3、図 5、図 6)

高校1年生、2年生について、学年と男女の2要因で統計処理を行った。3年生は、回収数が少なかったため除外した。学年ではすべての項目において、1年生の方が2年生よりも得点が有意に高かった。男女では、問1-ウ「オリンピックにボランティアなどで参加したいか」(F=1.866, p<.001)、エ「パラリンピックにボランティアなどで参加したいか」(F=1.343, p<.001)、問2-ア「役に立つことをしたいか」(F=0.032, p<.01)、イ「交流の意欲」(F=1.518, p<.001)は男子より女子の方が、得点が有意に高く、問2-ウ「運動やスポーツへの興味」(F=1.458, p<.01)、オ「外国への興味」(F=0.371, p<.05)では、男子の方が女子よりも得点が有意に高かった。問2-オについては小学校や中学校と異なる結果であった。

表 4：高校生問1、問2の回答の平均点 (4点満点)

学年	性別	n		問1					問2				
				ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ
1年	男	252	mean	2.71	2.33	2.26	2.19	2.25	3.01	2.55	3.21	2.66	2.54
			SD	0.90	0.81	0.88	0.84	0.89	0.76	0.79	0.84	0.85	0.92
	女	268	mean	2.75	2.51	2.55	2.51	2.34	3.15	2.86	3.08	2.67	2.73
			SD	0.80	0.73	0.84	0.83	0.82	0.62	0.68	0.82	0.74	0.81
2年	男	135	mean	2.56	2.15	2.14	2.02	2.10	2.77	2.38	3.04	2.50	2.36
			SD	0.94	0.81	0.90	0.84	0.89	0.83	0.79	0.88	0.86	0.87
	女	106	mean	2.42	2.17	2.23	2.19	2.03	2.91	2.54	2.75	2.51	2.44
			SD	0.83	0.76	0.88	0.81	0.84	0.72	0.77	0.94	0.81	0.87
F値				0.197	1.772	1.866	1.343	1.159	0.032	1.518	1.458	0.014	0.371
多重比較				2学年<1学年**	2学年<1学年*	2学年<1学年* 男子<女子***	2学年<1学年*	2学年<1学年*	2学年<1学年*	2学年<1学年*	2学年<1学年*	2学年<1学年*	2学年<1学年*** 女子<男子*

\* p<.05, \*\* p<.01, \*\*\* p<.001

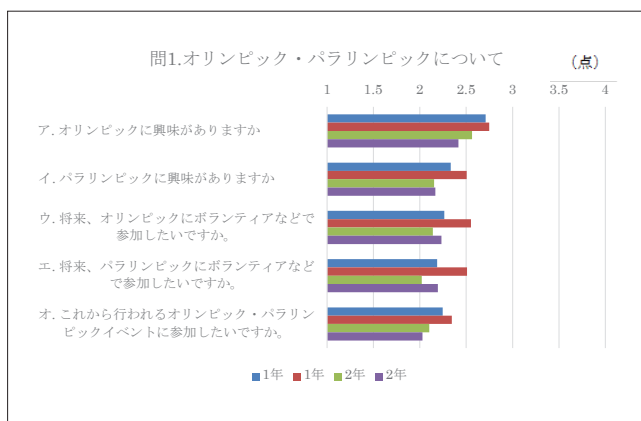


図 5：高校生問1の平均点 (4点満点)

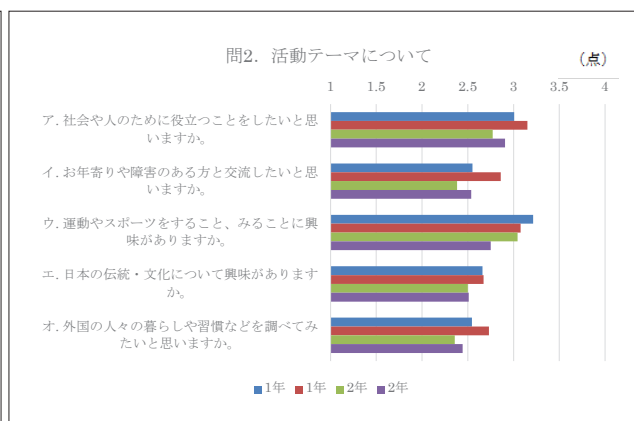


図 6：高校生問2の平均点 (4点満点)

---

#### 4.まとめ

本調査では、茨城県内の小学生 1,476 名、中学生 2,994 名、高校生 761 名を対象として、オリンピック・パラリンピックに関する興味・関心、全国展開事業のテーマに関する関心の程度について、平成 29（2017）年度時点での実態を明らかにすることができた。その結果、すべての校種において、オリンピックへの興味の方がパラリンピックへの興味よりも高い傾向にあった。このことから、パラリンピックについての認知度はオリンピックに比べて低いと考えられ、パラリンピックや障がい者のスポーツ、障がい者の理解を深めることが求められる。2020 東京大会のテーマの一つでもある多様性について、さまざまな実践が進められており、その成果を示すことは今後の課題であろう。また、今回の調査では、多くの項目において女子の方が高い興味を示しており、一方で、運動・スポーツをすることや見ることへの関心は総じて男子の方が高い結果となった。この点からも多様なスポーツとの関わり方を理解させ、実践できるよう指導する必要があることが示唆された。さらに、問 1. オリンピック・パラリンピックへの興味は、年齢が高くなるほど得点が低い傾向があった。年齢が上がるほど興味の対象は多様化することから、このような傾向は自然なこととも考えられるが、発達段階に応じた教材を活用するなどの対策によって、年齢にかかわらず興味関心を高められるような取り組みが必要であろう。

テーマについては、「社会や人のために役に立つことをしたい」と思う児童・生徒は比較的多かったが、その他のテーマについては現段階では多くの興味が寄せられているとは言えない結果であった。本調査の結果を今後の活動に生かし、児童生徒の関心が高まり、実践する力をつけるような教育活動が期待される。

また、今回は年度末に 1 回のみ調査であったが、教育活動の前後で質問紙調査を行い、比較することで教育活動の成果をより明らかにすることができると考えられる。今後は対象を全国の推進校に広げて、今回の課題を生かした評価を行い、効果的なオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの全国展開に役立てることが必要である。

## 筑波大学ボランティア育成セミナー実施報告

筑波大学客員教授、筑波大学ボランティア育成セミナー実行委員会 江上 いずみ

筑波大学の第3期中期目標・中期計画に、オリンピック教育の推進とともに、ボランティア育成が明記されています。折しも2018年9月から東京2020大会ボランティア募集が始まることから、2018年はラグビーワールドカップ2019や東京2020大会など、今後の国際的なスポーツ大会におけるボランティア育成の大切な時期と捉え、筑波大学として全7回にわたるボランティア育成セミナーを開催しました。

このセミナーは、これまでのオリンピック・パラリンピック教育の実績を活かして、ボランティアとして活躍するために必要な教養知識や技能を身に付けていただくことが目的です。

対象は高校生・大学生・一般の方々で、全7回のうち、2回は通訳ボランティアの育成も視野に入れ、神田外語大との共催で実施。他5回は、筑波大学東京キャンパスがある文京区との共催で、文京区内を中心とした高校・大学や、在住・在勤の一般の方などを対象として広く呼び掛けました。

### ＜育成セミナーの内容＞

セミナーは2日間の日程で、1日目は東京キャンパスで以下のような講義が行われました。

- ▶ 「オリンピックの歴史と教育」(筑波大学 真田久教授)
- ▶ 「パラリンピックの歴史と教育」(筑波大学 澤江幸則准教授)
- ▶ 「ボランティアに求められること」(組織委員会ボランティアアドバイザー委員 二宮雅也氏)
- ▶ 「アスリートとボランティアのコミュニケーション」(谷本歩実氏・山口香氏・千田健太氏・岩田朋之氏等)
- ▶ 平昌大会ボランティアを体験した学生のパネルディスカッション(明治大学・神田外語大学学生)
- ▶ 「国際スポーツ大会におけるテロ対策や自然災害時の対応」(大塚警察署)
- ▶ 「ボランティアとしてのおもてなしの心と異文化コミュニケーション」(筑波大学 江上いずみ客員教授)

第2日目は附属中高校内桐蔭会館および育鳳館を会場にして、以下のような実技が行われました。

- ▶ 「外国人とのコミュニケーション」(筑波大学留学生および外部英語講師)
- ▶ 「視覚障害者へのガイド方法」(筑波大学附属視覚特別支援学校 氣仙有実子教諭)
- ▶ 「車椅子のサポート方法」(筑波大学附属桐が丘特別支援学校 池田仁教諭・田丸秋穂教諭)
- ▶ ボッチャ体験(筑波大学 松原豊教授)
- ▶ シットイングバレー体験(筑波大学 杉山文乃助教)
- ▶ ブラインドサッカー体験(筑波技術大学 福永克己講師・天野和彦講師)



外国人を迎える握手のロールプレイ



視覚障害者のガイド方法



車椅子のサポート方法



ブラインドサッカー体験



シッティングバレー体験

### <開催日と参加者数および参加費>

このようなカリキュラムを設定し、以下の日程で全7回開催。最終的に424名の方々に受講していただくことができました。

プログラム	開催日	一般	大学	高校生	各回合計人数
第1回 筑波・神田国際スポーツボランティア人財育成プログラム	2018/6/10(日)・6/17(日)	/	65名	/	65名
第2回 筑波・文京国際スポーツボランティア育成プログラム	2018/8/4(土)・8/5(日)	23名	21名	18名	62名
第3回 筑波・文京国際スポーツボランティア育成プログラム	2018/8/26(日)・9/2(日)	63名	14名	30名	107名
第4回 筑波・神田国際スポーツボランティア人財育成プログラム	2018/9/23(日)・9/30(日)	/	65名	/	65名
第5回 筑波・文京ボランティア育成セミナー	2018/10/28(日)・11/3(祝)	16名	4名	5名	25名
第6回 筑波・文京ボランティア育成セミナー	2018/12/16(日)・12/23(日)	35名	1名	19名	55名
第7回 筑波・文京ボランティア育成セミナー	2019/1/13(日)・1/20(日)	33名	/	12名	45名
区別別(一般・大学・高校生)小計		(170名)	(170名)	(84名)	
各回参加者数(第1回～7回)合計		424名			

第1回～第4回の参加費は、高校生:3,000円 大学生・一般:5,000円で設定。第5回～第7回は文京区のさらなるご協力を得て、高校生:無料 大学生・一般:3,000円で開催しましたが、上記参加者数を見ると、参加費と参加人数は相関関係にないことがわかります。

### <講師講演料>

セミナーに登壇する講師の講演料について、筑波大学関係者は主催事業のため基本的に無料、オリンピックなどゲスト講師については2～5万円を支払いました。上記の参加費は外部講師の謝金や交通費、講師陣やボランティアスタッフの昼食・飲料費、ポスター・パンフレットの作製代、配布資料や修了証の印刷代、参加者の保険などに充てられました。

### <セミナーを受講するメリット>

2日間の全講義を受講した方には、修了証が授与されました。修了証を授与されたことにより、参加者のボランティアに対する前向きな意志の形成に繋がるとともに、今後の様々な国際スポーツ大会におけるボランティア申込みの際のアピールとなり、研修履歴として活用することができます。

また、間もなく開始されるであろう東京2020大会の大会ボランティア共通研修などに繋がっていただける内容であると考えています。

### <参加者の声>

参加者アンケートでは、満足度が非常に高く、かなり高い評価を得たことがわかります。

以下、受講者の声(全7回から一部抜粋)をご参照ください。



参加者に授与された修了証

- ・ボランティア＝無償の手伝いという認識であったが、今回の講義を聴いて、人のために役立つことを嬉しく思う自分というものの再発見をすることができた（大学生）
- ・おもてなしの心の講義を受けて感動した。参加した一部の者だけが学ぶのではなく、是非自分の学校の皆にも学んで欲しい講義だと感じた。（高校生）
- ・ボランティアには「この方はどんな方なのか」「何をしてあげたら喜んでもらえるのか」と、相手を観察して気付いて、それに応じた対応をしていくことが大切であるとわかった（一般）
- ・オリンピックは競技だけではなく文化的・教育的活動にも幅広く繋がっていること、またそれら活動を円滑に進めるためにボランティアの存在は大事であることを実感した（大学生）
- ・普段学校では学ぶことのできないオリンピック・パラリンピックのこと、障害者スポーツの講義を聴くことができ、オリンピック開催への興味関心が深まった（高校生）
- ・講義だけではなく実技を通して体験的に学べたことが大変有意義であった。特に視覚障害への声掛けや支援方法は体験しなくては身につかないと感じた（高校生）
- ・ボランティアは無償でお手伝いすることだけが目的ではなく、一般教養・各国の事情・マナーを知った上で初めてボランティアとしての活動が成り立つことを改めて実感した（大学生）
- ・自身にも視覚障害があり多くのパラスポーツや障害者スポーツなど経験してきたので、2020大会では大会ボランティアとして還元していきたいと思う（高校生）
- ・ボランティアを学びに来たが、それだけではなく社会勉強を学ぶことができ、世界・人・社会が全て繋がっていることを実感した（大学生）
- ・障害者へのサポート・外国人への対応の講義は、如何に相手目線に立ち、考え、サポートできるかがわかり、ボランティアの枠を超えて社会へ応用できる内容であった（大学生）
- ・全く知らないことを学べた。ボランティアの面談で本日のことを活かしたいと思う。（高校生）
- ・このセミナーを通して、一步踏み出し挑戦することは新たな仲間に出会い新しい自分を発見することに繋がることを実感した。このような機会を与えてくれたことに感謝している。（一般）
- ・独学で学んだら大変なことを第一線で活躍の専門家の方に学べ、よい機会となった（一般）
- ・2日間のカリキュラムがとても良く練られていて、参加費以上の値打ちがあった（一般）

#### <ボランティア育成セミナーを終えて>

全7回にわたりボランティア育成セミナーを開催しましたが、講義によるオリンピックやパラリンピックの歴史や理念、ボランティアの仕組みや心構えに関するカリキュラムに加えて、障害のある人々の視点からのサポートのあり方や、障害者スポーツの実体験を学ぶ2日間の内容は、大きな意義があったといえます。実際にボランティアとして関わる際のテクニックやマナーを身に付けるのみならず、日常生活において、他者に対して配慮のある生き方をしていくことは、参加者の声にもありますように、自他共に喜びとなり、心を豊かにしていくこととなります。それはまさに東京2020大会の理念の一つである「多様性と調和」につながります。高い評価を得たこのセミナーは、オリンピック教育、特別支援教育、アダプテッドスポーツを推進してきた筑波大学の人的資源によるところが大きいのはもちろんですが、これらの成果を今後はさらに各地に広げていきたいと思っています。

スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業」において、「マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成」、「スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築」を、オリンピック・パラリンピック教育の内容と位置付けていることから、当事業の一環としても実施されました。ここで得た成果を、全国各校でのオリンピック・パラリンピック教育講演に盛り込み、今後も活用していきたいと思えます。

最後になりましたが、ご協力いただいた文京区、神田外語大学ならびに東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、大塚警察署の皆さまに心から感謝申し上げます。



永田学長が参加者一人一人に修了証を授与



## 筑波大学 TIAS による附属駒場中学校でのオリンピック価値教育 (OVEP)

TIAS 研究員 高橋 美穂子

筑波大学つくば国際スポーツアカデミー（以下、TIAS）では2017年から2019年にかけて毎年3月に、留学生計17人を附属駒場中学校（以下、附属駒場）に派遣し、中学生計47人に対してオリンピック価値教育（Olympic Values Education Programme、以下、OVEP）を行ってきた。講座は毎年、英語で行われ、日本人学生が通訳した。基本的には、導入（アイスブレイクとオリンピズムの紹介）の後、オリンピズムの「3つの本質的価値」（卓越性、友情、敬意／尊重）や、本質的価値を体験するための「5つの教育テーマ」（努力から得られる喜び、フェアプレー、敬意／尊敬の実践、卓越性の追求、身体・意志・精神のバランス）に基づいたゲームを行い、最後に振り返りをした。ゲームは TIAS 学生が国際オリンピック委員会（IOC）公認の OVEP に関する教材を参考に、対象者の特性などを踏まえ考案した。2017 年は 5 つの教育テーマに基づいたゲームを行った。例えば、「フェアプレー」では、目隠しをして音の鳴るボールをパスしあう「ブラインド・パス・サッカー」を行った。声とボールの音だけを頼りにパスし、「見てはいけない」というルールを守る経験を通じて学んでもらった。アンケート結果から、参加者のうち7割以上が「楽しめた」と分った。一方で、特定の価値について理解が難しかったことも分った。このため、2018年以降は3つの本質的価値に絞ってゲームを行った。また、2017年は参加者全員と一緒に各ゲームに参加してもらったが、翌年からは小グループに分け、ローテーション形式で各ゲームに参加してもらった。その結果、各価値についての理解度は改善された。一方で、時間が長く参加者の集中力が切れてしまった。そこで、2019年は各ゲームの時間を20分短縮し、約15分間にした。また、参加者にはゲームを体験した上で、どのような価値について学習してもらおう意図があったのかを答えてもらう方法をとった（写真）。様々な答えが出てきたことから、参加者がゲームやスポーツに対して勝ち負けだけではない価値を見いだすことができたと考えられた。TIASでは今後、この留学生による各国での OVEP 普及に期待しつつ、指導案を日本語と英語で作成するなど、より効果的な実施を検討したい。



# OVEP 指導案資料

## OVEP 教師用指導案「アクティビティシート 02 オリピック・シンボル」

- 対象： 小学校低学年
- 本時のねらい： オリピック・リングを知り、その重要性を理解する。
- 準備物： アクティビティシート 9 ページ、色鉛筆（クレヨン）
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、道徳、学級活動、図工 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】これまでにオリピック・リングを見たことがありますか？ どんなどころで見かけるでしょうか？	オリピック・シンボルがあるということ、本時はそれについて学ぶことを理解させる。	
展開 (15分)	2) オリピック・シンボルについて知る 【演習】オリピック・シンボルは 5 つの輪からできています。オリピック・リングに色を塗ってみましょう。オリピック・シンボルは何色でできていたかな。	オリピック・リングの色を考えさせる。 色と配置を考えさせてから、色鉛筆やクレヨンを使ってワークシートの図に色をぬらせる。	アクティビティシート 9 ページ「オリピック・シンボル」
(10分)	【説明】「オリピック・リングとオリピック旗について知る。(オリピック・リングの色と配置、色の意味とシンボルの歴史)	全体が概ね塗り終わったら、オリピック・シンボルを見せる。 32 ページの「オリピック・リングとオリピック旗について説明する。 自分が塗った色と比較させる。なぜその色だと思ったか。	「オリピック価値教育の基礎」32 ページ
(10分)	3) オリピック・シンボルについて考える 【発問】オリピック・リングを見たことがない人に、あなたはどのように説明しますか？ 隣の人に説明してみよう。	5 つの輪はどのようにつながっているか、色はどのように配置されているかなど、伝えるポイントを示す。	
まとめ (5分)	オリピック・シンボルがどんなものでどんな意味があったか、振り返る。	これからどんなどころで見かけるかなど、今後に興味関心をつなげる。	

## OVEP 教師用指導案「アクティビティシート 02 オリムピック・シンボル」

- 対象： 小学校中・高学年
- 本時のねらい： オリムピック・リングを知り、その重要性を理解する。
- 準備物： アクティビティシート 9 ページ、色鉛筆（クレヨン）
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、道徳、学級活動 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】これまでにオリムピック・リングを見たことがありますか？ どんなどころで見かけますか？	オリムピック・シンボルがあるということ、本時はそれについて学ぶことを理解させる。	
展開 (15分)	2) オリムピック・シンボルについて知る 【演習①】オリムピック・シンボルを書いてみましょう。オリムピック・シンボルは5つの輪からできています。正しく書けたかな。 オリムピック・リングに色を塗ってみましょう。オリムピック・シンボルは何色だったかな。	白紙にオリムピック・リングを書かせる。 5つの輪のつながり方、色と配置を考えさせてから、色鉛筆やクレヨンを使って色をぬらせる。 全体が概ね塗り終わったら、オリムピック・シンボルを見せる。	アクティビティシート 9 ページ「オリムピック・シンボル」
(10分)	【説明】「オリムピック・リングとオリムピック旗について知る。(オリムピック・リングの色と配置、色の意味とシンボルの歴史)	32ページの「オリムピック・リングとオリムピック旗について説明する。 輪のつながりが正しく書けていたか、色と配置は正しかったか。なぜその色だと思ったか。	「オリムピック価値教育の基礎」32ページ 「オリムピック価値教育の基礎」17・18ページ
(10分)	3) オリムピック・シンボルについて考える 【発問】オリムピック・リングを見たことがない人に、あなたはどのように説明しますか？ 隣の人に形だけでなく、その意味も含めて説明してみよう。	5つの輪はどのようにつながっているか、色はどのように配置されているかなど、伝えるポイントを示す。2人組を作りお互いに説明する。	
まとめ (5分)	オリムピック・シンボルがどんなものでどんな意味があったか、振り返る。	これからどんなどころで見かけるかなど、今後に興味関心をつなげる。	

## OVEP 教師用指導案「アクティビティシート 02 オリピック・シンボル」

- 対象： 中学生
- 本時のねらい： オリピック・リングを知り、その重要性を理解する。
- 準備物： インターネットに接続できるタブレットまたは PC、ワークシート
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、道徳 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】これまでにオリピック・リングを見たことがありますか？ それはどんな形、色でしょうか？その意味を知っていますか？	本時はオリピック・シンボルについて学ぶことを理解させる。 オリピック・シンボルについて知っていることを話し合わせる。	
展開 (10分)	2) オリピック・シンボルの意味について知る。 (オリピック・リングの形や色と配置、色の意味とシンボルの歴史について知る)	資料を用いてオリピック・シンボルの意味を伝える。	「オリピック価値教育の基礎」32,34 ページ
(20分)	3) その他の国際的なシンボルについて調べる。それぞれどんな意味を持っているだろうか。  グループで調べ、グループ間でも共有する。	パラリンピック、国際連合、ユネスコ、赤十字、国境なき医師団などインターネットを使ってシンボルとその意味を調べさせ、ワークシートに記入させる。	ワークシート
(10分)	4) オリンピズムについて学ぶ。オリピック・シンボルはオリimpiズムのメッセージを伝えているかどうか、考えてみよう。もし加えるとしたら、どんな要素が必要だろうか。  グループの考えを全体で共有しよう。	資料を基にオリimpiズムについて紹介する。 オリピック・シンボルがオリimpiズムのメッセージを伝えているか考えさせる。他にどんな要素が必要か話し合わせる。 各グループに発表させる。	「オリピック価値教育の基礎」18 ページ
まとめ (5分)	オリピック・シンボルの意味、オリimpiズムについて振り返る。	オリimpiズムについて振り返らせ、自分たちが考えたシンボルについても、今後も継続して考えられるよう方向づける。	

## OVEP 教師用指導案「アクティビティシート 02 オリンピック・シンボル」

- 対象： 高校生
- 本時のねらい： オリンピック・リングを知り、その重要性を理解する。
- 準備物： インターネットに接続できるタブレットまたは PC
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、現代社会、保健体育 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】これまでにオリンピック・リングを見たことがありますか？ それはどんな形、色でしょうか？	本時はオリンピック・シンボルについて学ぶことを理解させる。 オリンピック・シンボルについて知っていることを話し合わせる。	
展開 (10分)	2) オリンピック・シンボルの意味について知る。 (オリンピック・リングの色と配置、色の意味とシンボルの歴史)	資料を用いてオリンピック・シンボルの意味を伝える。	「オリンピック価値教育の基礎」32,34 ページ
(20分)	3) オリンピズムについて学び、オリンピックを取り巻く社会の変化について考える。 シンボルが発表された 1914 年と現在ではどんな違いがあると思いますか。 (1914 年がどんな年か調べよう。第 1 次世界大戦勃発など)	資料を用いてオリンピズムについて説明する。  1914 (大正 3) 年はどうなことがあったかインターネット等で調べさせる。 大正 3 年と現在では社会情勢、私たちを取り巻く生活がどのように違うのか考えさせる。	「オリンピック価値教育の基礎」18、25 ページ ワークシート 日本史・世界史の教科書、資料集など
(10分)	4) 1914 年に発表されたオリンピック・シンボルが現代においても適切と言えるだろうか。今後 100 年オリンピックが続くとして、このシンボルを使い続けることができるだろうか。新しくするとしたら、どんなものがいいか、考えてみよう。	作成された時代と現在の違いを踏まえて、シンボルに必要な要素を考えさせる。時代を超えても変わらないもの、時代とともに変わりゆくものなど、必要に応じて考えるヒントを与える。	
まとめ (5分)	オリンピックが始まったころと現在の違いを振り返る。	オリンピックが今後も続くためには、何が必要か、考えを今後につなげる。	

## OVEP 教師用指導案「アクティビティシート04 オリピック・モットー」

- 対象： 小学校中・高学年
- 本時のねらい：
  - 1) オリピックを探求するときに、児童・生徒たちをインスパイア（元気づけ、明るくさせる）し、元気づけるモットーの力を明確に理解する。
  - 2) オリピック・モットーの意味を理解する。
- 準備物： オリピック価値教育の基礎、ワークシート(グループの話し合い)
- 適用可能な学習時間：総合的な学習の時間、道徳、学級活動 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (7分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】みなさんは運動会でかけっこをしたり、スポーツの試合をするとき、何を目標に走ったり、プレーしたりしますか。オリピック・モットー「より速く、より高く、より強く」について知る。	本時はオリピック・モットーについて学ぶことを理解する。 隣の人と、お互いの考えを聞き合うよう支持する。 資料を用いてオリピック・モットーを紹介し、自分の考えと比較させる。	「オリピック価値教育の基礎」38 ページ
展開 (10分)  (15分)  (8分)	2) オリピック・モットーについて考える オリピックのモットー（標語）は、「より速く、より高く、より強く」です。競技するときの目標として適切だと思いますか。話し合ってみましょう。 3) 勝つことだけがすべてではないこと、その過程が大切であることに気付く 「オリピック競技大会でもっとも重要なことは、勝つことではなく参加することである。同様に、人生でもっとも重要なことは成功ではなく奮闘努力することである。肝心なのは、勝つことよりも、よく戦うことである」 グループの話し合いの結果を共有しよう。	オリピック・モットーと自分の考えを比較して、同じかどうか、グループで紹介し合う。また、競技するにはほかに大切なことはないかグループで話し合わせる。  競技会で優勝する人は1人(1チーム)だけであることを示し、それ以外の人(チーム)は意味がないのか、についてグループで話し合わせる。 オリピックのメッセージを聞いて、これまでの話し合いと比較する。このメッセージに同意するか、それ以外の考えか、理由も含めて話し合わせる。 他のグループの意見を共有させる。	ワークシート  「オリピック価値教育の基礎」39 ページ
まとめ (5分)	オリピック・モットーと自分たちの考えを振り返り、スポーツ以外の機会にも当てはめる。	スポーツ以外の事にも置き換えられることに気付かせる。	

## OVEP 教師用指導案「アクティビティシート04 オリジナル・モットー」

- 対象： 中学生
- 本時のねらい： 1) オリジナルを探求するときに、児童・生徒たちをインスパイア（元気づけ、明るくさせる）し、元気づけるモットーの力を明確に理解する。  
2) オリジナル・モットーの意味を理解する。
- 準備物： オリジナル価値教育の基礎、ワークシート(グループの話し合い)
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、道徳、学級活動 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (7分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】オリジナル・モットーについて知っていますか、みなさんは競技をするとき、何を目標にプレーしますか。 オリジナル・モットー「より速く、より高く、より強く」について知る。	本時はオリジナル・モットーについて学ぶことを理解する。 隣の人と、お互いの考えを聞き合うよう支持する。 資料を用いてオリジナル・モットーを紹介し、自分の考えと比較させる。	「オリジナル価値教育の基礎」38 ページ
展開 (15分)  (13分)  (10分)	2) 不正について考える このモットーを追求すると、どのようなことが起こり得るでしょうか。競技者の立場や、審判の立場、コーチの立場からも考えてみましょう。 不正をするのはなぜでしょうか。不正をすると、周りにどんな影響を及ぼすでしょうか。 3) 「オリジナル競技大会でもっとも重要なことは、勝つことではなく参加することである。同様に、人生でもっとも重要なことは成功ではなく奮闘努力することである。肝心なのは、勝つことよりも、よく戦うことである」のメッセージについて考える。 話し合いの結果を共有する。	グループで話し合わせ、究極を追求すると、不正が起こり得ることに気付かせる。さまざまな立場から考えるよう指示する。 どんな不正があり得るか、それはなぜか、周囲にどのような影響があるか話し合わせる。 ワークシートに記入させる。 グループの話し合いを踏まえて、左記メッセージをどう思うか、さらに話し合わせる。  グループ毎に話し合いの結果を共有する。	ワークシート  「オリジナル価値教育の基礎」39 ページ
まとめ (5分)	競技において不正がなぜ起こるのか、それが周囲にどんな影響を及ぼすかを振り返る。	本時の内容を日常生活に置き換えて考えられるよう指導する。	



## OVEP 教師用指導案「アクティビティシート04 オリピック・モットー」

- 対象： 高校生
- 本時のねらい： 1) オリピックズムを探求するときに、児童・生徒たちをインスパイア（元気づけ、明るくさせる）し、元気づけるモットーの力を明確に理解する。  
2) オリピック・モットーの意味を理解する。
- 準備物： オリピック価値教育の基礎、ワークシート(グループの話し合い)
- 適用可能な学習時間：総合的な学習の時間、保健体育 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】オリピック・モットーについて知っていますか、みなさんは競技をするとき、何を目標にプレーしますか。 オリピック・モットー「より速く、より高く、より強く」について知る。	本時はオリピック・モットーについて学ぶことを理解する。 隣の人と、お互いの考えを聞き合うよう指示する。 資料を用いてオリピック・モットーを紹介し、自分の考えと比較させる。	「オリピック価値教育の基礎」38 ページ
展開 (8分)	2) 不正について考える このモットーを追求すると、どのようなことが起こり得るでしょうか。競技者の立場や、審判の立場、コーチの立場からも考えてみましょう。不正をするのはなぜか、不正をすると周囲にどんな影響を及ぼすかも考えてみましょう。	グループで話し合わせ、究極を追求すると、様々な不正が起こりうることに気付かせる。さまざまな立場から考えるよう指示する。 どんな不正があり得るか、それはなぜか、周囲にどのような影響があるか話し合わせる。	ワークシート
(15分)	3) 不正の事例を調べる インターネットを使って不正の事例を調べてみましょう。事例の背景や、さらに周囲にどのような影響があったのかも調べてみましょう。	ワークシートに記入させる。 PCやタブレットを使って、グループ毎に自分たちが考えた不正に類する事例を探す。背景についても調べてそれをもとに考えさせる。	「オリピック価値教育の基礎」39 ページ
(8分)	4) 「オリピック競技大会でもっとも重要なことは、勝つことではなく参加することである…。」について考える。	調べた結果に照らし合わせて考えさせる。不正をなくすにはどうしたらよいだろうか。	
(10分)	話し合いの結果を共有する。	グループ毎に話し合いの結果を共有する。	
まとめ (4分)	競技において不正がなぜ起こるのか、それが周囲にどんな影響を及ぼすかを振り返る。	本時の内容を日常生活に置き換えて考えられるよう指導する。	

## 教師用指導案「聖火と聖火リレー」

- 対象： 小学校低学年
- 本時のねらい： 東京 2020 大会の聖火リレーの意味を理解する
- 準備物： OVEP アクティビティシート 12 ページ、色鉛筆（クレヨン）
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、道徳、学級活動、図工 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】これまでにオリンピックの聖火を見たことがありますか？ どんなどころに置かれているか考えよう。	オリンピックに聖火リレーがあること、本時はそれについて学ぶことを理解させる。聖火について知っていることを発表させる。	「 <a href="#">東京 2020 聖火リレー授業用参考資料</a> 」
展開 (10分)	2) 聖火と聖火リレーについて知る オリンピックの聖火は聖火台に大会の期間中、灯されています。聖火を聖火台まで運ぶため聖火リレーが行われます。東京 2020 オリンピック聖火リレーのコンセプトについて学びましょう。	東京 2020 オリンピック聖火リレーのコンセプト「Hope Lights Our Way / 希望の道を、つなごう。」には、どのような願いが込められているか考えさせる。2 人組になって話し合い、クラスで発表する。	東京 2020 ウェブサイト「 <a href="#">東京 2020 オリンピック聖火リレー</a> 」
(25分)	3) 「クレヨンや色鉛筆を使って、聖火のトーチの握りの部分によく知っている選手をデザインしてみよう」  又は  「クレヨンや色鉛筆を使って、トーチをデザインしてみよう」	トーチの握りの部分のデザインとして有名なアスリートの姿を描く。祭りなど地域の文化を描いても良い。  過去大会のトーチを参考に、オリジナルのトーチを描く。	過去の大会のトーチについては「 <a href="#">オリンピック・パラリンピック学習読本中学校編</a> 」 p.96-97 東京 2020 大会のトーチについては東京 2020 ウェブサイト（ <a href="#">オリンピック聖火リレートーチ・エンブレム</a> 、 <a href="#">パラリンピック聖火リレートーチ・エンブレム</a> ）
まとめ (5分)	オリンピック聖火と聖火リレーがどんなものでどんな意味があるか、振り返る。	東京 2020 オリンピック聖火リレーに関心を持たせる。	

## 教師用指導案「聖火と聖火リレー」

- 対象： 小学校中・高学年
- 本時のねらい： 聖火と東京 2020 聖火リレーの意味を理解する
- 準備物： インターネットに接続できるタブレット又は PC、
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、学級活動 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】これまでに聖火を見たことがありますか？どんなところで見ましたか？	オリンピックには聖火があり、聖火リレーが行われること、本時はそれについて学ぶことを理解させる。	<a href="#">「東京 2020 聖火リレー授業用参考資料」</a>
展開 (10分)	2) オリンピック聖火について知る オリンピックの聖火は聖火台に大会の期間中、灯されています。聖火を聖火台まで運ぶため聖火リレーが行われます。 東京 2020 オリンピック聖火リレーのコンセプトについて学びましょう。	東京 2020 オリンピック聖火リレーのコンセプト「Hope Lights Our Way - 希望の道を、つなごう。」にどのような願いが込められているか考えさせる。	<a href="#">「オリンピック価値教育の基礎」</a> p.40-41 東京 2020 ウェブサイト <a href="#">「東京 2020 オリンピック聖火リレー」</a>
(25分)	(※時間に余裕があれば実施) 東京 2020 パラリンピックの聖火リレーの考えを学ぶ 東京 2020 パラリンピック聖火リレーのコンセプトについて学びましょう。	東京 2020 パラリンピック聖火リレーのコンセプトは「Share Your Light / あなたは、きっと、誰かの光だ。」であることも学ばせる。	東京 2020 ウェブサイト <a href="#">「東京 2020 パラリンピック聖火リレー」</a>
	3) 聖火リレーのユニークな実施手法を考える どのように聖火リレーを行うと、地域の特色を出せるだろう。ユニークな実施手法を考えよう。	聖火リレーのユニークな実施手法を考えさせる。ただし、リレー実施中に灯された炎が消えないことが条件。 2 人組で話し合い、クラスで発表する	<a href="#">OVEP アクティビティシート</a> p.12「スピリットに点火する：オリンピック聖火」
まとめ (5分)	聖火と聖火リレーにはどのような意味があったか振り返る。	東京 2020 聖火リレーに関心を持たせる。	

## 教師用指導案「聖火と聖火リレー」

- 対象： 中学生
- 本時のねらい： 聖火の歴史と東京 2020 聖火リレーの意味を理解する
- 準備物： インターネットに接続できるタブレット又は PC
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、道徳、保健体育理論等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】 聖火リレーが 2020 年に日本国内で行われますが、本校のある都道府県ではいつ行われるか知っていますか？ オリンピック聖火はどのような意味があるのでしょうか？	本時はオリンピック聖火と聖火リレーの意味について学ぶことを理解させる。 オリンピック聖火について知っていることを話し合わせる。	東京 2020 ウェブサイト「 <a href="#">東京 2020 聖火リレー</a> 」 「 <a href="#">東京 2020 聖火リレー授業用参考資料</a> 」
展開 (10分)	2) 聖火の歴史について知る。 (古代における聖火の意味とオリンピックの歴史について知る)	資料を用いてオリンピック聖火の意味を学ぶようにする。	「 <a href="#">オリンピック・パラリンピック学習読本中学校編</a> 」 p.32-33 「 <a href="#">オリンピック価値教育の基礎</a> 」 p.40-41
(10分)	3) 東京 2020 聖火リレー（オリンピックとパラリンピック）の意味について調べる。それぞれどんなテーマを持っているだろうか。	オリンピックとパラリンピックそれぞれで聖火リレーが行われ、それぞれにコンセプトが考えられていることを学ばせる。	東京 2020 ウェブサイト「 <a href="#">東京 2020 聖火リレー</a> 」
(20分)	4) 東京 1964 大会時の聖火リレーについて調べる。どのようなコースを通ったのだろうか。また、コースにはどのような意味が込められていたのか、考えてみよう。	東京 1964 大会では、4つのコースに分かれて全都道府県をリレーしたことを学ばせる。 人々がどのような思いで聖火を迎えたのか、考えさせる（又は、当時を知る地域の人のお話を聞く機会を設ける）。	「 <a href="#">オリンピック・パラリンピック学習読本中学校編</a> 」 P32-33、P46
まとめ (5分)	オリンピック聖火の歴史と意味、東京 2020 聖火リレーの意味について振り返る。	今後も聖火リレーに関心を持つよう方向づける。	

## 教師用指導案「聖火と聖火リレー」

- 対象： 高校生
- 本時のねらい： 聖火の歴史と東京 2020 聖火リレーの意味を理解する
- 準備物： インターネットに接続できるタブレット又は PC
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、現代社会、保健体育 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】オリンピック聖火の採火式はギリシャで行われます。なぜギリシャで行われるのでしょうか。	本時は聖火と聖火リレーの歴史と意味について学ぶことを理解させる。 聖火について知っていることを発表させる。	「 <a href="#">オリンピック価値教育の基礎</a> 」 p.40-41 「 <a href="#">東京 2020 聖火リレー授業用参考資料</a> 」
展開 (10分)	2) オリンピック聖火の歴史と採火式について知る。 (古代における聖火の意味とオリンピアで行われる採火式を通して聖火の意味を知る)	資料を用いてオリンピック聖火の歴史とオリンピアでの採火式について調べる。	「 <a href="#">オリンピック・パラリンピック学習読本高等学校編</a> 」 p.44-45
(15分)	3) 東京 2020 聖火リレー (オリンピックとパラリンピック) の意味について調べる。	オリンピックとパラリンピックそれぞれで聖火リレーが行われ、それぞれにコンセプトがあることを学ばせる。	東京 2020 ウェブサイト「 <a href="#">東京 2020 聖火リレー</a> 」
(15分)	4) 東京 1964 大会の聖火リレーでは、いくつの国や地域を結び、何人のランナーが聖火をつないだのか調べる。また、聖火リレーのコースにはどのような意味が込められていたのか考えさせる。	東京 1964 大会ではギリシャで採火された聖火が、アジアの国々を経由して、当時アメリカの占領下にあった沖縄に到着したこと、全国で約 10 万人もの走者が参加したことなどを学ばせる。 人々がどのような思いで聖火を迎えたのか、考えさせる (又は、当時を知る地域の人の話を聞く機会を設ける)。	「 <a href="#">オリンピック・パラリンピック学習読本高等学校編</a> 」 P44-45、P64、P73
まとめ (5分)	オリンピック聖火の歴史と意味、東京 2020 聖火リレーの意味について振り返る。	聖火について振り返らせ、今後も継続して関心を持つよう方向づける。	

## OVEP 教師用指導案「アクティビティシート 09 オリピック休戦」

- 対象： 小学校低学年
- 本時のねらい： 平和と国際理解の促進のためのツールとしてオリピック休戦の力を理解する。
- 準備物： 画用紙、絵の具・色鉛筆・クレヨンなどの画材
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、道徳、図工 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (10分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】オリピックは平和の祭典と呼ばれていますが、それはなぜでしょう。 「オリピック休戦」について知る。	テキストの「オリピック休戦の歴史」の内容をわかりやすく説明する。	「オリピック価値教育」の48ページ
展開 (25分)	2) 世界中の人々が戦争をやめてスポーツの競技会に集まってくるようなイメージを持って、世界が平和になるようなポスターを描いてみよう。	テキストの「オリピック休戦のシンボル」を児童に提示してイメージを持たせる。 必要に応じて、シンボルの中にオリピック・リングやオリピック聖火があることやその意味を説明する。 児童のイメージが広がるような言葉かけを行う。	「オリピック価値教育」の48ページ 「オリピック価値教育」の32ページ、40ページ
まとめ (10分)	完成したポスターをグループで見せ合おう。 各自がポスターに込めた思いやイメージを説明しよう。	グループの中で見せ合って、いくつかをクラス全体に紹介する。 時間が足りないようなら持ち帰って完成させるよう指示する。	

## OVEP 教師用指導案「アクティビティシート 09 オリピック休戦」

- 対象： 小学校中・高学年
- 本時のねらい： 平和と国際理解の促進のためのツールとしてオリピック休戦の力を理解する。
- 準備物： 画用紙、絵の具・色鉛筆・クレヨンなどの画材
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、道徳、図工 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (10分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】オリピックは平和の祭典と呼ばれていますが、それはなぜでしょう。 「オリピック休戦」について知る。	テキストの「オリピック休戦の歴史」の内容をわかりやすく説明する（発達段階に応じて可能ならば各自で読ませる）。	「オリピック価値教育」の48ページ
展開 (5分)  (20分)	2) 「オリピック休戦」のイメージを広げる。 「オリピック休戦」からイメージするキーワードを書きだしてみよう。  3) ポスターを完成させる。 出てきたキーワードの中からいくつかを選んで、ことばとそこからイメージするイラストを描いて、「平和を祈る」ポスターを完成させよう。	少人数のグループで取り組む。 「オリピック休戦」からイメージするキーワードをブレインストーミングさせる。 まずは別紙にキーワードをどんだん書かせる。  キーワードの中から発想を広げさせ、ことばとイラストでポスターを完成させる。	
まとめ (10分)	完成したポスターをクラス全体で見せ合おう。 ポスターに込めた思いやイメージを説明しよう。	時間が足りないようなら休み時間や放課後を使って完成させ、クラスや校内に掲示する。 必要に応じてテキストの「オリピック休戦のシンボル」を提示して説明する。	「オリピック価値教育」の48ページ

## OVEP 教師用指導案「アクティビティシート 09 オリピック休戦」

- 対象： 中学生
- 本時のねらい： 平和と国際理解の促進のためのツールとしてオリピック休戦の力を理解する。
- 準備物： PC、タブレットなどの ICT 機器、ワークシート
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、道徳、学級活動 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (10分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】オリピックは平和の祭典と呼ばれていますが、それはなぜでしょう。 「オリピック休戦」について知る。	テキストの「オリピック休戦の歴史」を各自で読ませる。	「オリピック価値教育」の48ページ
展開 (10分)	2) 平和を促進する活動について考える。 世界の平和を促進する活動にはどんなものがあるだろうか。具体的に考えてみよう。	少人数のグループで活動させる。 平和を促進する活動について、ブレインストーミングさせる。考えが出にくいようなら身近な例を挙げる。	ワークシート
(10分)	3) 2) で上がった活動をしている人たちについて調べ、質問したいことを考えよう。	インターネットなどを使って調べさせる。 質問をワークシートに記入させる。	PC・タブレット
(10分)	4) 平和を促進する活動している人になったつもりで、3) のインタビューに答えてみよう。 グループでペアを作り、インタビュアーと答える人を交代してみよう。	グループの中でペアを作り、インタビュアーと答える人を交代して行わせる。	
まとめ (10分)	平和を促進する活動にはどんなものがあったか、クラス全体で共有する。 インタビューやその答えで面白かったものをクラスに紹介しよう。	グループの代表に発表させる。 活動を見て回り、共有したいやりとりを見つけておく。 自分たちができることはないか、振り返って考えさせる。	



## OVEP 教師用指導案「アクティビティシート 09 オリピック休戦」

- 対象： 高校生
- 本時のねらい： 平和と国際理解の促進のためのツールとしてオリピック休戦の力を理解する。
- 準備物： PC、タブレットなどの ICT 機器、ワークシート
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、道徳、学級活動 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (10分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】オリピックは平和の祭典と呼ばれていますが、それはなぜでしょう。 「オリピック休戦」について知る。	テキストの「オリピック休戦の歴史」を各自で読ませる)。	「オリピック価値教育」の48ページ
展開 (15分)	2) 「オリピック休戦」の現実について考える 現在のオリピックは「休戦」を実現できているだろうか。具体的に考えてみよう。 「オリピック休戦」の実現には何が必要だろうか。	少人数のグループで活動させる。 インターネットを使って具体的な事例を調べさせる。  現実の事例から必要なことを具体的に考えさせ、次の活動につなげる。	ワークシート PC・タブレット
(15分)	3) 「オリピック休戦」を実現するための活動を世界の若者に呼びかけてみよう。 どんなスローガンでどんなメッセージを送るのが効果的か。各自が表現できる独創的な方法を考えてみよう。	各自が考えた独創的な方法をヒントにグループでイメージが広げられるように指導する。	
まとめ (10分)	グループの成果をクラス全体で共有する。 メッセージを世界に発信するにはどんな方法があるだろうか。	グループの代表に発表させる。 自分たちに何ができるか、世界に発信するにはどうしたらよいか考えさせる。	

OVEP 教師用指導案「アクティビティシート 22 オリンピック競技大会を通じた持続可能な開発」関連  
「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の意味

- 対象： 小学校低学年
- 本時のねらい： リサイクルを知り、その重要性を理解する。
- 準備物： 東京 2020 公式ウェブサイト、色鉛筆（クレヨン）
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、道徳、学級活動 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】オリンピック・パラリンピックには何種類のメダルがありますか？	メダルには金・銀・銅の3種類があり、みんなが協力することでメダルを作る方法があることを説明する。	
展開 (20分)	2) メダルについて知る 金・銀・銅の3種類のメダルの絵を描く。 オリンピック・パラリンピックのメダルはたくさん必要だが、東京 2020 大会では、使わなくなったゲーム機、携帯電話やパソコンなどから作ろうとしていることを説明する。 他にアイロンやカメラも利用できることを知る。	色鉛筆やクレヨンを使ってワークシートに絵を描く。 全体が概ね塗り終わったら、「都市鉱山からつくるみんなのメダルプロジェクト」として、携帯電話・ゲーム機、パソコンなどからメダルを作っていることを説明する。	東京 2020 公式ウェブサイト「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」について
(15分)	3)内村航平選手（体操）や池崎大輔選手（ウィルチェアラグビー）のメッセージを読んで、メダルプロジェクトの大切さを理解する。	選手のメッセージを児童でもわかるように読んで説明する。	同ウェブサイト「アスリートからのコメント」
まとめ (5分)	不要になった携帯電話で金メダルが作れること、リサイクルすることの大切さを振り返る。	家にある使われていない携帯電話を探してみること、回収場所（市区町村の役場や郵便局など）にも言及する。	

OVEP 教師用指導案「アクティビティシート 22 オリンピック競技大会を通じた持続可能な開発」関連  
「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の意味

- 対象： 小学校中・高学年
- 本時のねらい： リサイクルによるメダルの製作を知り、リサイクルの重要性を理解する。
- 準備物： インターネットに接続できるタブレットまたは PC
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、道徳、学級活動 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】オリンピック・パラリンピックのメダルは使用済みの携帯電話で作られることを知っていますか？	東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、メダルはリサイクルによって製作されていること、本時はそれについて学ぶことを理解させる。	
展開 (20分)	2) メダルプロジェクトについて知る 「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の概要を知る。 携帯電話から金属の精製過程を動画「ドコモのケータイリサイクル」を通して理解する。 他にアイロンやカメラなどいろいろな小型家電も利用できることを知る。	自分の身の回りにある不要になったものが役に立つことを理解する。 市区町村の役場、郵便局、ドコモショップなどで行われていることを知る。	東京 2020 公式ウェブサイト「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の「メダルの原材料」について
(5分)	3)内村航平選手（体操）や池崎大輔選手（ウィルチェアラグビー）のメッセージを読んで、このプロジェクトの大切さを理解する。	選手のメッセージを児童でもわかるように読んで説明する。	東京 2020 公式ウェブサイト「プロジェクト参加方法について」のリンク先動画
(10分)	4) みんなのメダルプロジェクトで作られたメダルをもらった選手はどう思うだろうか、グループで話し合う。	いくつかのグループでの話し合いを発表させる。	同ウェブサイト「アスリートからのコメント」
まとめ (5分)	リサイクルの大切さについて、振り返る。	家にある使われていない携帯電話や小型家電を探してみることに言及する。	

OVEP 教師用指導案「アクティビティシート 22 オリンピック競技大会を通じた持続可能な開発」関連  
「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の意味

- 対象： 中学生
- 本時のねらい： リサイクルによるメダルの製作について知り、リサイクルの重要性を理解する。
- 準備物： インターネットに接続できるタブレットまたは PC、ワークシート
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、道徳 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】東京 2020 大会のメダルは、携帯電話や PC など使用済み小型家電で作られることを知っていますか？	東京 2020 大会では、メダルはリサイクルによって作られること、本時はそれについて学ぶことを理解させる。	
展開 (10分)	2) オリンピックのメダルのデザインについて知る (オリンピック夏季大会のおもて面は、アテネのパナシナイコスタジアムに立つ勝利の女神ニーケが描かれていて、これはアテネ 2004 大会から決められていることを学ぶ。 裏面は競技名と大会エンブレムがデザインされる。)	オリンピックメダルは、2003 年に現在のオリンピック夏季大会のおもて面のデザインが改定され、アテネの競技場に降り立つニーケの像という今日のデザインになったことを伝える。	東京 2020 公式ウェブサイト「オリンピック・パラリンピックメダルの豆知識」について
(15分)	3) 「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の概要を知る。 携帯電話から金属の精製過程について動画を通して理解する。 他にアイロンやカメラなどいろいろな小型家電も利用できることを知る。	「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」についてその内容を説明する。	東京 2020 公式ウェブサイト「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」および同ウェブサイトの「プロジェクト参加方法について」のリンク先動画
(10分)	4) 「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」についてどう思うか、話し合おう。	隣の人とまたはグループで話し合い、時間があれば発表させる。	
まとめ (5分)	リサイクルすることの大切さを確認するとともに、不要になった携帯電話や小型家電をリサイクルに出そう。	これらを回収している身近な場所（市区町村の役場や郵便局など）に言及する。	

OVEP 教師用指導案「アクティビティシート 22 オリンピック競技大会を通じた持続可能な開発」関連  
「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の意味

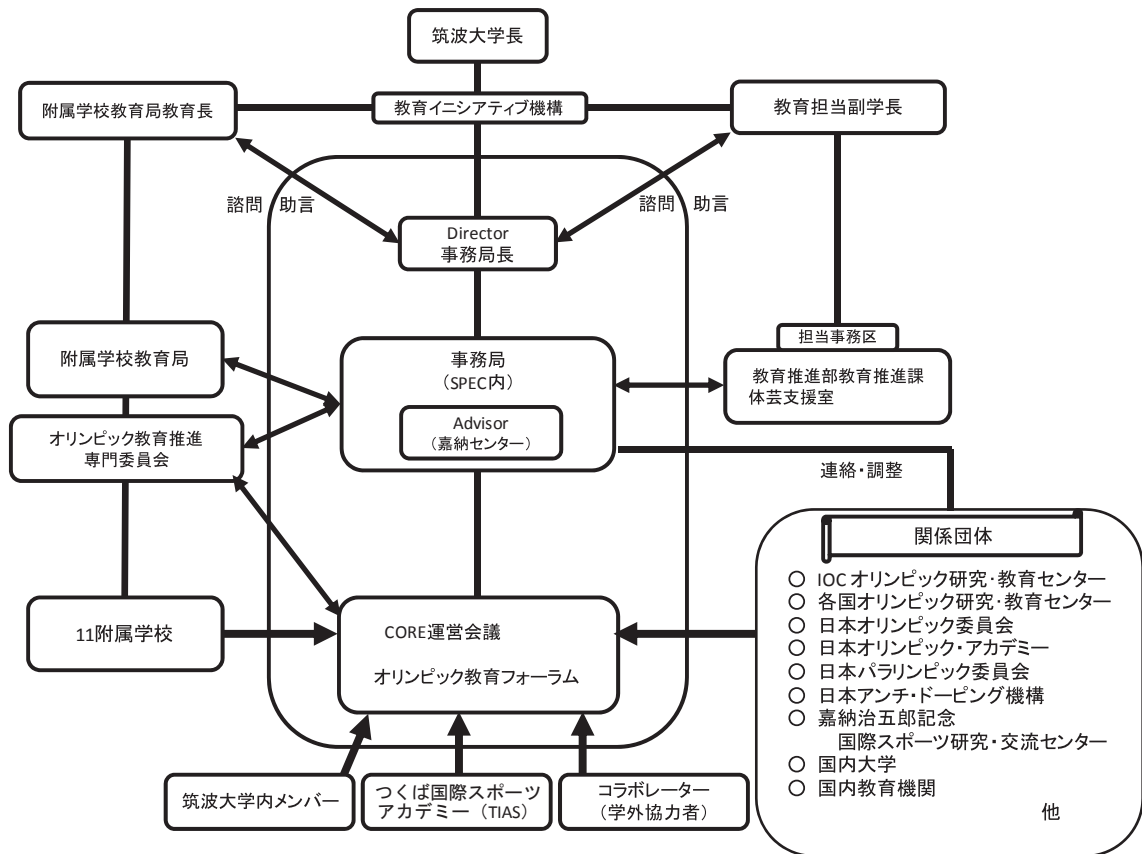
- 対象： 高校生
- 本時のねらい： リサイクルによるメダルの製作について知り、リサイクルの重要性を理解する。
- 準備物： インターネットに接続できるタブレットまたは PC、ワークシート
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、道徳 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】東京 2020 大会のメダルは、携帯電話や PC など使用済み小型家電で作られることを知っていますか？	東京 2020 大会では、メダルはリサイクルによって製作されていること、本時はそれについて学ぶことを理解させる。	
展開 (10分)	2) オリンピックのメダルのデザインについて知る (オリンピック夏季大会のおもて面は、アテネのパナシナイコスタジアムに立つ勝利の女神ニーケが描かれていて、これはアテネ 2004 大会から決められていることを学ぶ。 裏面は競技名と大会エンブレムがデザインされる。)	オリンピック夏季大会のメダルは、2003 年に現在のオリンピック夏季大会のおもて面のデザインが改定され、アテネのパナシナイコスタジアムに立つニーケの像という今日のデザインになった。	東京 2020 公式ウェブサイト「オリンピック・パラリンピックメダルの豆知識」
(20分)	3) 「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の概要を知る。 携帯電話から金属の精製過程を動画「ドコモのケータイリサイクル」を通して理解する。 他にアイロンやカメラなどいろいろな小型家電も利用できることを知る。	金メダルは銀製の円盤に 6 グラム以上の純金で金張りしたもの。メダルの製作には銀と銅が大量に必要であることを知り、それらが含まれている小型家電をインターネットなどで探す。	東京 2020 公式ウェブサイト「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」および同ウェブサイトの「プロジェクト参加方法について」のリンク先動画
(10分)	4) 「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」についてどう思うか、話し合おう。	各グループ単位で考えさせる。	
まとめ (5分)	リサイクルすることの大切さを確認するとともに、不要になった携帯電話や小型家電をリサイクルに出して参加しよう。	これらを回収している身近な場所これらを回収している身近な場所（市区町村の役場や郵便局など）に言及する。	

## 筑波大学附属学校オリンピック教育推進専門委員会委員（平成30年度）

委員長	茂呂 雄二	附属学校教育局教育長
副委員長	雷坂 浩之	附属学校教育局教育長補佐
	濱本 悟志	附属学校教育局次長
	小林美智子	教育長特命補佐
	真田 久	体育専門学群長
	小島 道生	教育局准教授
	宮崎 明世	体育系准教授
	清水 由	附属小学校教諭
	山形 友広	附属中学校教諭
	鮫島 康太	附属高等学校教諭
	登坂 大樹	附属駒場中・高等学校教諭
	藤原 亮治	附属坂戸高等学校教諭
	原田 清生	附属視覚特別支援学校教諭
	岡本 三郎	附属聴覚特別支援学校教諭
	初村多津子	附属大塚特別支援学校教諭
	寒河江 核	附属桐が丘特別支援学校教諭
	松館 敬太	附属久里浜特別支援学校教諭

## 筑波大学オリンピック教育プラットフォーム組織図



オリンピック教育 vol.7 2018/04-2019/03

---

2019年6月発行

発行者 筑波大学オリンピック教育プラットフォーム / 附属学校オリンピック教育推進専門委員会  
つくば国際スポーツアカデミー

発行所 オリンピック教育プラットフォーム (CORE) 事務局  
〒305-8574 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学 GSI 棟 204  
事務局長 真田久

編集者 福田佳太

---